



Nissan Chemical
CORPORATION

未来のための、はじめてをつくる。

2024年3月期 第1四半期 決算説明会

説明者 大門秀樹(取締役専務執行役員CFO)

2023年8月10日



**Institutional
Investor**

2023 JAPAN EXECUTIVE TEAM

NISSAN CHEMICALS CORP

Contents

01

2023年度第1四半期 連結決算報告

P3

02

2023年度第1四半期 セグメント概況

P11

03

ESGトピックス

P39

04

参考資料

P44

Contents

01	2023年度第1四半期 連結決算報告	P3
02	2023年度第1四半期 セグメント概況	P11
03	ESGトピックス	P39
04	参考資料	P44

1Q

業績予想比

(2023年5月発表予想との比較)

- 売上高は、1億円上ぶれ
- 営業利益は、5億円上ぶれ
- 純利益は、13億円上ぶれ

1Q

前年同期比

- 売上高は、34億円減収(−6%)
- 営業利益は、23億円減益(−13%)
- 純利益は、17億円減益(−12%)

株主還元の状況

- 自己株式取得 50億円完了(2023年5~6月、805千株)

業績予想

- 上期及び通期の業績予想は、2023年5月15日発表より変更なし

2023年度1Q決算サマリー 業績予想比

(億円)

	2023年度 1Q予想	2023年度 1Q実績	業績予想比
売上高	548	549	+1
営業利益	145	150	+5
営業外損益	7	20	+13
為替差損益	0	15	+15
経常利益	152	170	+18
特別損益	0	0	0
純利益※1	109	122	+13
EBITDA※2	-	178	-
EPS(円/株)	-	87.40	-
売上高営業利益率	26.5%	27.3%	+0.8pt
為替レート(円/ドル)	128	137	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	92	84	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

2023年度1Q決算サマリー 前年同期比

(億円)

	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比
売上高	583	549	-34 (-6%)
営業利益	173	150	-23 (-13%)
営業外損益	22	20	-2
為替差損益	17	15	-2
経常利益	195	170	-25 (-13%)
特別損益	0	0	0
純利益※1	139	122	-17 (-12%)
EBITDA※2	197	178	-19
EPS(円/株)	98.13	87.40	-10.73
売上高営業利益率	29.6%	27.3%	-2.3pt
為替レート(円/ドル)	130	137	-
原油(JCC)(ドル/bbl)※3	111	84	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※3 実績は財務省貿易統計ベース

1Q

	2023年度 実績	業績予想	業績予想比	2022年度 実績	前年同期比
	150 億円	145 億円	+5 億円	173 億円	-23 億円(-13%)
化学品	業績予想比 予想通り				
	前年同期比 -8億円		メラミン(終売)・テピックの減収、原燃料高		
機能性材料	業績予想比 1億円下ぶれ				ディスプレイ上ぶれも、半導体下ぶれ
	前年同期比 -14億円		半導体の減収、固定費増加		
農業化学品	業績予想比 予想通り				主要品目の販売下ぶれも、固定費下ぶれ(増益要因)により利益予想通り
	前年同期比 -2億円		フルララネル原薬の減収		
ヘルスケア	業績予想比 1億円上ぶれ				ファインテックの上ぶれ
	前年同期比 +3億円		ファインテックの増収		

営業外損益・特別損益の内訳

(億円)

	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比	2023年度 1Q予想
受取利息・配当金	3.1	2.9	-0.2	2.8
持分法投資損益	2.3	5.4	+3.1	5.7
為替差損益※1	16.9	14.8	-2.1	0.0
支払利息	-0.4	-1.2	-0.8	-1.5
固定資産処分損他	0.4	-1.4	-1.8	-0.1
営業外損益	22.3	20.5	-1.8	6.9
特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損失	0.0	0.0	0.0	0.0
特別損益	0.0	0.0	0.0	0.0

※1 為替レート(円/ドル): 22/3末 122.41、22/6末 136.69、23/3末 133.54、23/6末 144.99

2023年度1Q実績のフリー・キャッシュ・フローは72億円となり、前年同期比16億円の減少

(億円)

	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	131	123	-8
税金等調整前純利益	195	171	-24
特別損益(マイナスは益)	0	0	0
減価償却費※1	25	28	+3
法人税等の支払	-75	-74	+1
運転資金増減他	-14	-2	+12
投資活動によるキャッシュ・フロー	-43	-51	-8
設備投資	-34	-64	-30
投資有価証券購入・売却	-4	0	+4
その他	-5	13	+18
フリー・キャッシュ・フロー	88	72	-16
財務活動によるキャッシュ・フロー	-180	-106	+74
株主還元(配当)	-102	-132	-30
株主還元(自己株式取得)	-50	-50	0
借入金増減	-27	76	+103
その他	-1	0	+1
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	2	-6
現金及び現金同等物の増減額	-84	-32	+52
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	31	0	-31
現金及び現金同等物の残高	294	265	-29

※1 のれん償却費を含む

貸借対照表

(億円)

	2022年6月末	2023年3月末	2023年6月末	前期末比
流動資産	1,726	1,894	1,846	-48
現預金	294	296	264	-32
売上債権	800	827	778	-49
たな卸資産	558	647	716	+69
その他	74	124	88	-36
固定資産	1,046	1,093	1,168	+75
有形固定資産	569	647	721	+74
無形固定資産	120	115	114	-1
投資有価証券	298	273	276	+3
その他	59	58	57	-1
資産合計	2,772	2,987	3,014	+27

	2022年6月末	2023年3月末	2023年6月末	前期末比
負債	675	772	833	+61
買入債務	185	199	174	-25
借入金	206	273	374	+101
その他	284	300	285	-15
純資産	2,097	2,215	2,181	-34
株主資本※1	1,955	2,088	2,029	-59
その他有価証券評価差額金	86	77	81	+4
為替換算調整勘定	22	17	34	+17
非支配株主持分	30	31	35	+4
退職給付に係る調整累計額	4	2	2	0
負債純資産合計	2,772	2,987	3,014	+27

自己資本比率	74.5%	73.1%	71.2%
D/Eレシオ※2	-4.5%	-1.1%	+5.4%

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2022年6月末	2023年3月末	2023年6月末	前期末比
上場株式※3	193	169	174	+5
(単体ベース保有銘柄数)	(30)	(26)	(26)	(0)
非上場株式	31	24	26	+2
関係会社株式	74	80	76	-4
合計	298	273	276	+3

純資産に占める 政策保有株式の割合※4	9.9%	7.9%	8.3%
------------------------	------	------	------

参考

2018年3月末

300

(55)

17

68

385

17.0%

※1 株主資本増減 -59 = 純利益122 - 配当その他181 ※2 D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本

※3 23/3末 169 + 取得0 + 評価差額5 = 23/6末 174 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株 + 非上場株) / 純資産(連結ベース)

Contents

01

2023年度第1四半期 連結決算報告

P3

02

2023年度第1四半期 セグメント概況

P11

03

ESGトピックス

P39

04

参考資料

P44

セグメント別 2023年度1Q決算 前年同期比

(億円)

		2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比
化学品	売上高	104	91	-13 (-13%)
	営業利益	17	9	-8 (-46%)
機能性材料	売上高	218	208	-10 (-4%)
	営業利益	79	65	-14 (-18%)
農業化学品	売上高	197	188	-9 (-5%)
	営業利益	68	66	-2 (-4%)
ヘルスケア	売上高	17	20	+3 (+18%)
	営業利益	8	11	+3 (+44%)
卸売・その他・調整額	売上高	47	42	-5
	営業利益	1	-1	-2
合計	売上高	583	549	-34 (-6%)
	営業利益	173	150	-23 (-13%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ(旧社名：日本燐酸。硫酸の製造。2023年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp55,p56参照)

セグメント別 2023年度1Q決算 業績予想比

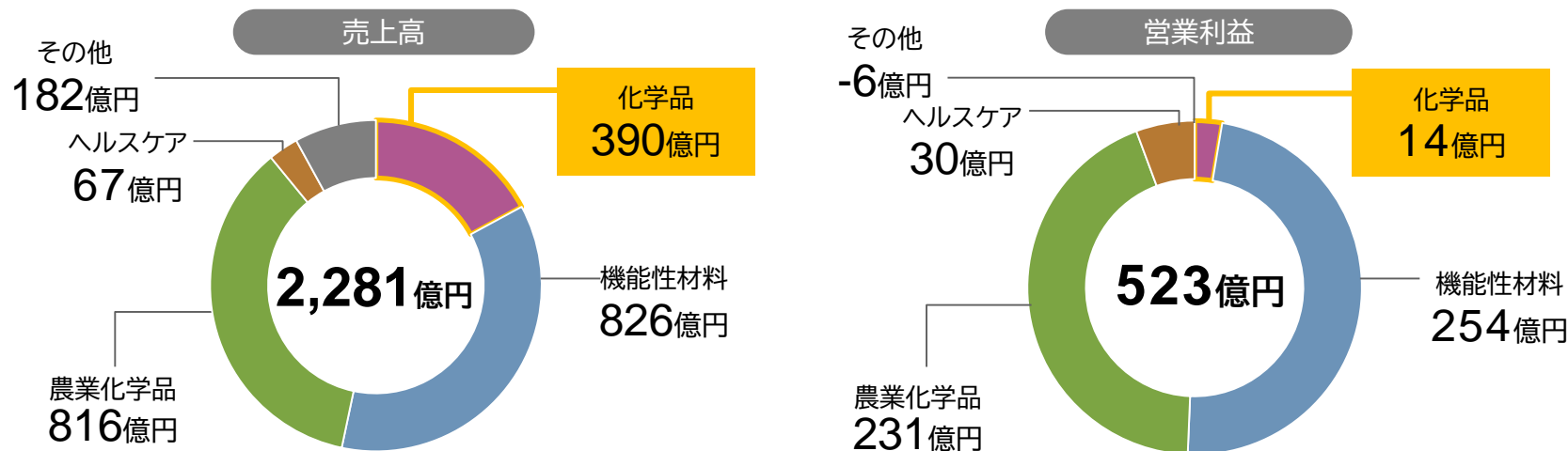
(億円)

		2023年度 1Q予想	2023年度 1Q実績	業績予想比
化学品	売上高	94	91	-3
	営業利益	9	9	0
機能性材料	売上高	205	208	+3
	営業利益	66	65	-1
農業化学品	売上高	192	188	-4
	営業利益	66	66	0
ヘルスケア	売上高	19	20	+1
	営業利益	10	11	+1
卸売・その他・調整額	売上高	38	42	+4
	営業利益	-6	-1	+5
合計	売上高	548	549	+1
	営業利益	145	150	+5

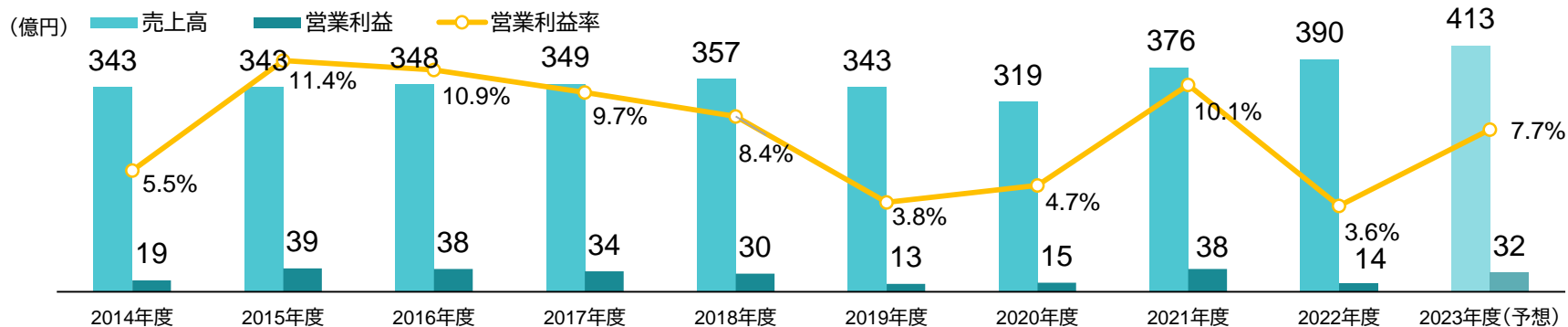
※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ(旧社名：日本燐酸。硫酸の製造。2023年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか(内訳はp55,p56参照)

2022年度セグメント別業績



化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58,p59参照)

- ファインケミカルは、1Qで29%減収、業績予想比でも下ぶれ
- 基礎化学品は、1Qで2%減収、業績予想比でも下ぶれ

主要製品	2023年度 1Q実績	2023年度 1Q予想
	前年同期比	前年同期比
テピック	-66%	-61%
環境化学品	+16%	+15%
ファインオキシコール	-25%	-19%
ファインケミカル合計※1	-29%	-26%
メラミン※2	-100%	-100%
尿素・アドブルー®	+33%	+40%
高純度硫酸	-13%	-12%
硝酸製品	+71%	+83%
基礎化学品合計※3・4	-2% (+26%)	+1% (+30%)
化学品セグメント合計※3	-13% (+1%)	-10% (+4%)

※1 テピック、環境化学品、ファインオキシコールの2023年度1Q実績ファインケミカル売上高に占める割合: 85%

※2 メラミンは2022年6月生産停止、12月販売終了(p19参照、メラミン生産停止による構造改革)

※3 ()内伸び率は、2022年度実績・2023年度実績ともにメラミンを除く

※4 メラミン、尿素・アドブルー®、高純度硫酸、硝酸製品の2023年度1Q実績基礎化学品売上高に占める割合: 48%

【1Q】売上高-13億円(うちメラミン-14億円)、営業利益-8億円

	(億円)		
	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比
売上高	104	91	-13
ファインケミカル	42	30	-12
基礎化学品	62	61	-1
営業利益	17	9	-8

【1Q】減収・減益

ファイン
ケミカル

- テピック一般 需要減で減収
- テピック電材 減収
- 環境化学品 増収
- ファインオキシコール 減収
- 原燃料高(減益要因)

【1Q】減収・営業利益横ばい

基礎
化学品

- メラミン 終売で減収
- 尿素・アドブルー® 増収(メラミン停止により増販、価格上昇)
- 高純度硫酸 減収
- 硝酸製品 数量増、価格上昇により増収
(22年度硝酸プラントトラブル影響)
- 原燃料高(減益要因)

【1Q】売上高-3億円、営業利益予想通り

(億円)

	2023年度 1Q予想	2023年度 1Q実績	業績予想比
売上高	94	91	-3
ファインケミカル	31	30	-1
基礎化学品	63	61	-2
営業利益	9	9	0

【1Q】売上高・営業利益とも下ぶれ

ファイン
ケミカル

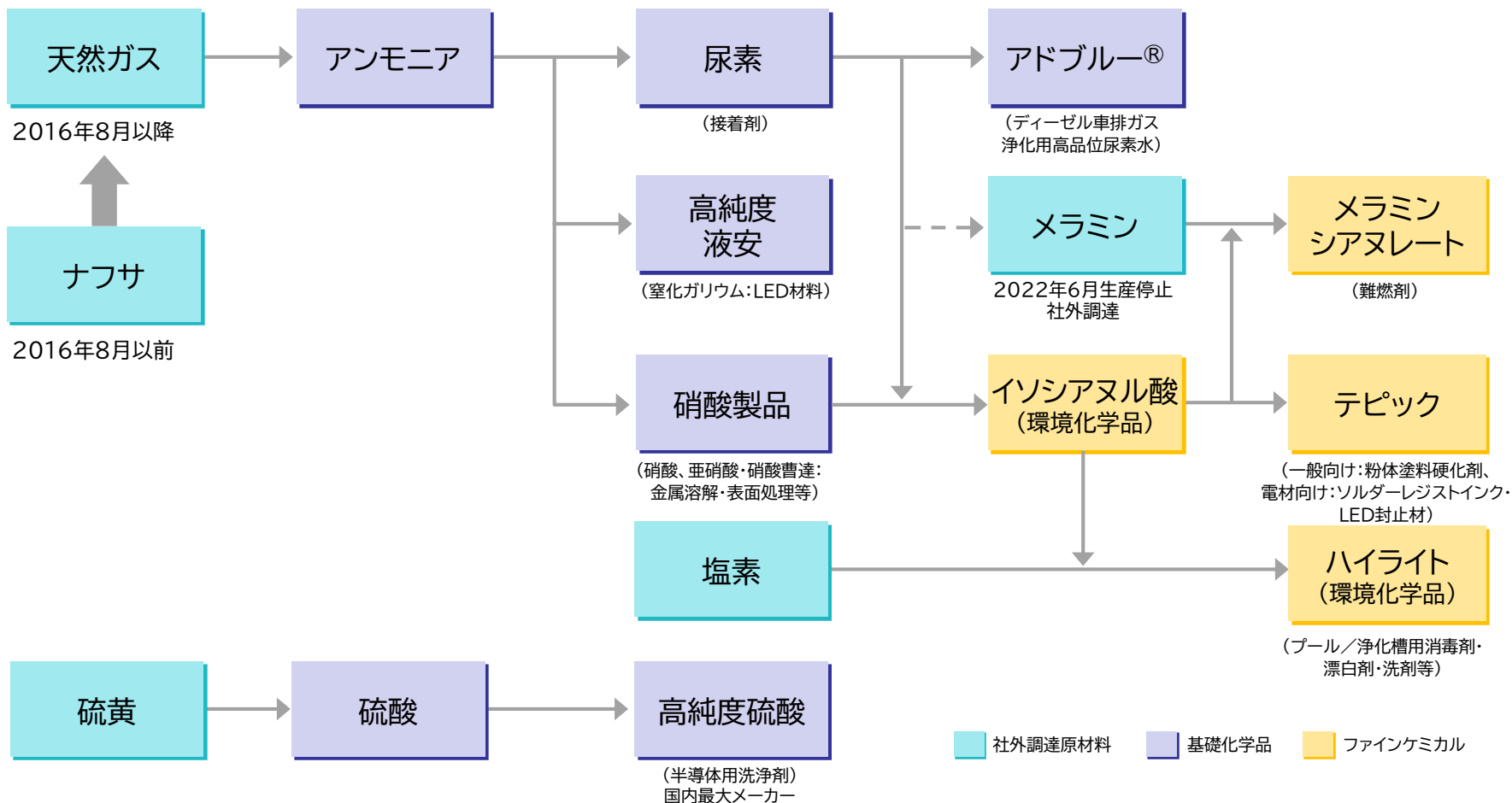
- テピック一般 数量減により売上高下ぶれ
- テピック電材 売上高上ぶれ
- 環境化学品 売上高予想通り
- ファインオキシコール 売上高下ぶれ

【1Q】売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ

基礎
化学品

- 尿素・アドブルー® 売上高下ぶれ
- 高純度硫酸 売上高予想通り
- 硝酸製品 売上高下ぶれ
- 原燃料安(増益要因)

- 主要製品は、アンモニア系と硫酸系
- 2022年度アンモニア国内生産能力シェアはわずか11%
- 規模を追わず、高純度硫酸やテピックなどの高付加価値製品へ注力



- 2021年8月発表通り、2022年6月にメラミン生産を停止、12月で販売終了
- 今後も高付加価値・高シェア製品へ経営資源を集中

1. 化学品事業の売上高・営業利益(2018-2021年度累計)

(億円)

	売上高(構成比)	営業利益(構成比)	主要製品
アンモニア系	925(66%)	19(20%)	アンモニア、尿素・アドブルー®、高純度液安、メラミン、硝酸、シアヌル酸、ハイライト、テピック、メラミンシアヌレート
硫酸系	470(34%)	77(80%)	硫酸、精製硫酸、高純度硫酸
その他			ファインオキシコール等
セグメント合計	1,395(100%)	96(100%)	

※アンモニア系製品中、メラミンが売上高最大も赤字。メラミン以外のアンモニア系製品合計利益は黒字

2. メラミンの現状と展望

下記要因から、中長期的に安定的な利益を確保することは困難でリスクの大きい事業、新規投資による利益拡大も望めない

- 世界の生産能力は、需要の2倍(当社推定)
- 国内の生産能力(当社含め2社)は、需要の3倍(当社推定)
- 価格は、21年度下期から22年度1Qまで回復基調だったが、以降急落
安値中国品(生産能力は世界の約7割を占める)の動向に大きく左右され、不安定

3. 対応策

- ① 2022年6月 メラミン生産停止、在庫消滅時点で販売終了
- ② 高付加価値、高シェア製品への資源集中等による拡販
- ③ メラミン操業員は、富山工場内で配置転換
- ④ メラミン誘導品は、原料メラミンを購入品に切り替えて販売継続

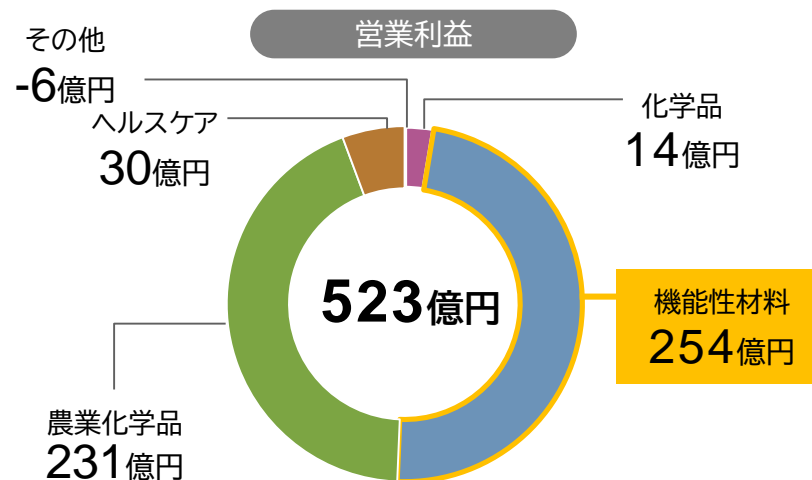
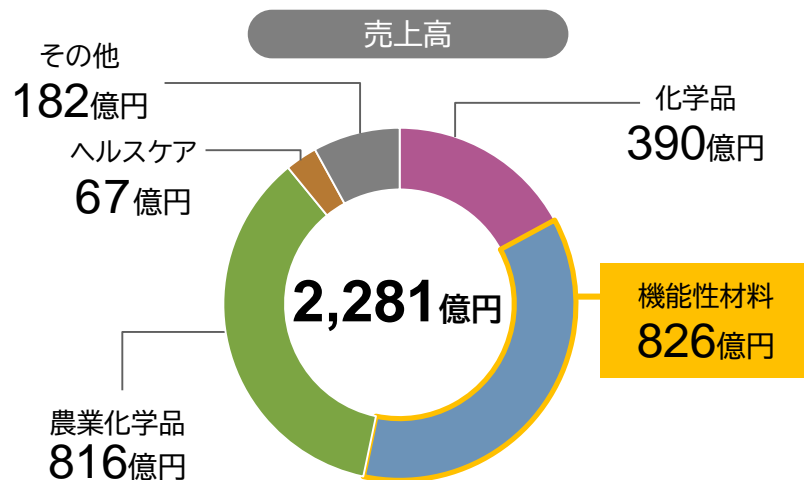
4. 構造改革費用

メラミン停止関連諸費用(特別損失17.9億円)は投資有価証券売却益でカバー済み(2021年2Q計上)

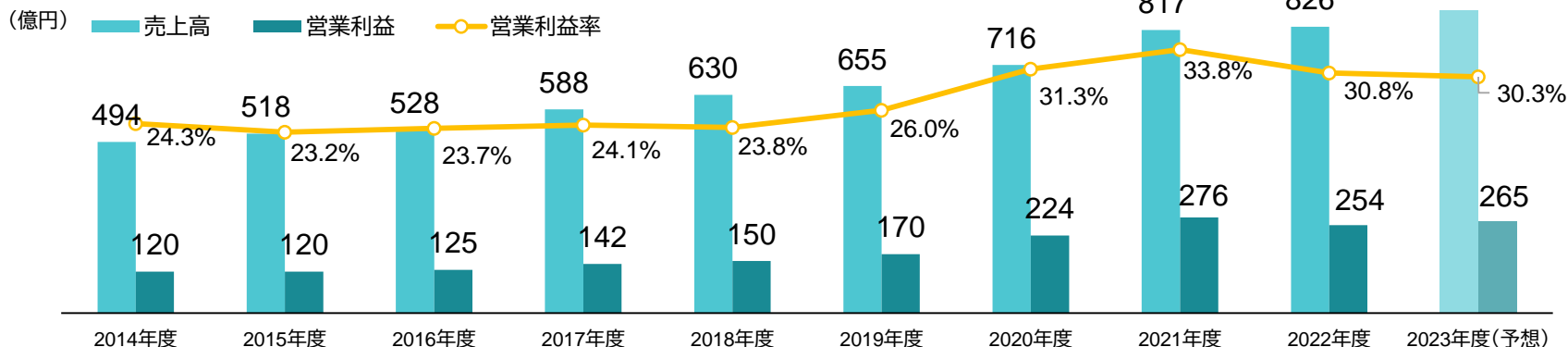
5. ESG

メラミン停止によるCO2削減量試算: -26千トン
→2018年度実績の約7%に相当(p40参照)

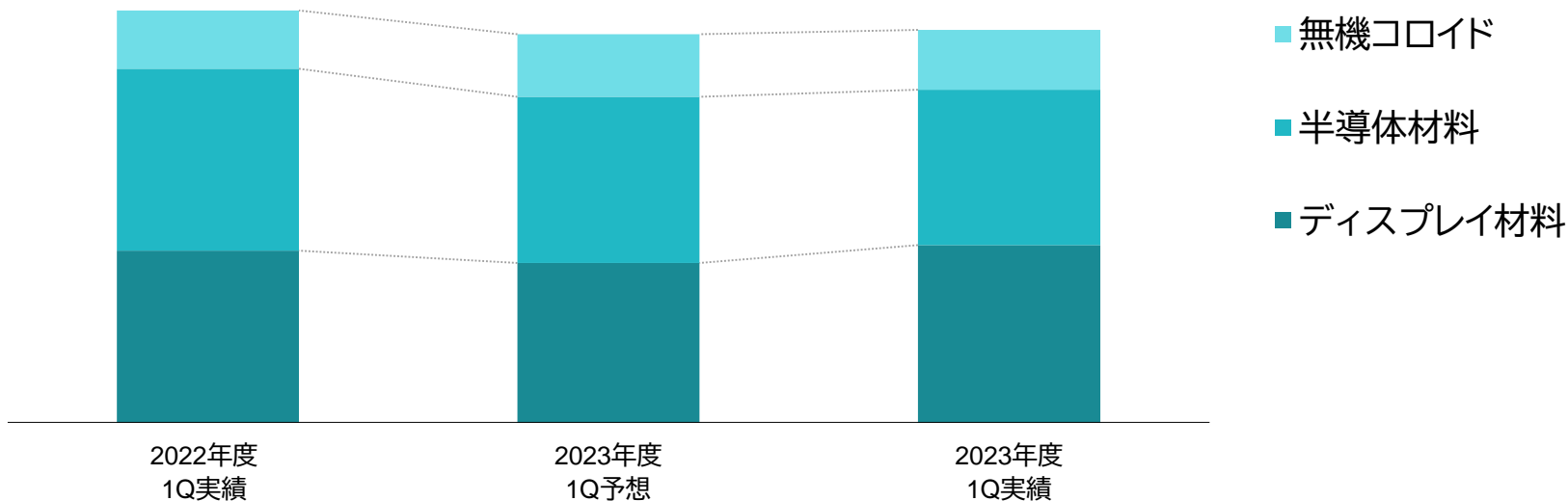
2022年度セグメント別業績



機能性材料セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58,p59参照)



- 無機コロイド
- 半導体材料
- ディ스플레이材料

主要製品

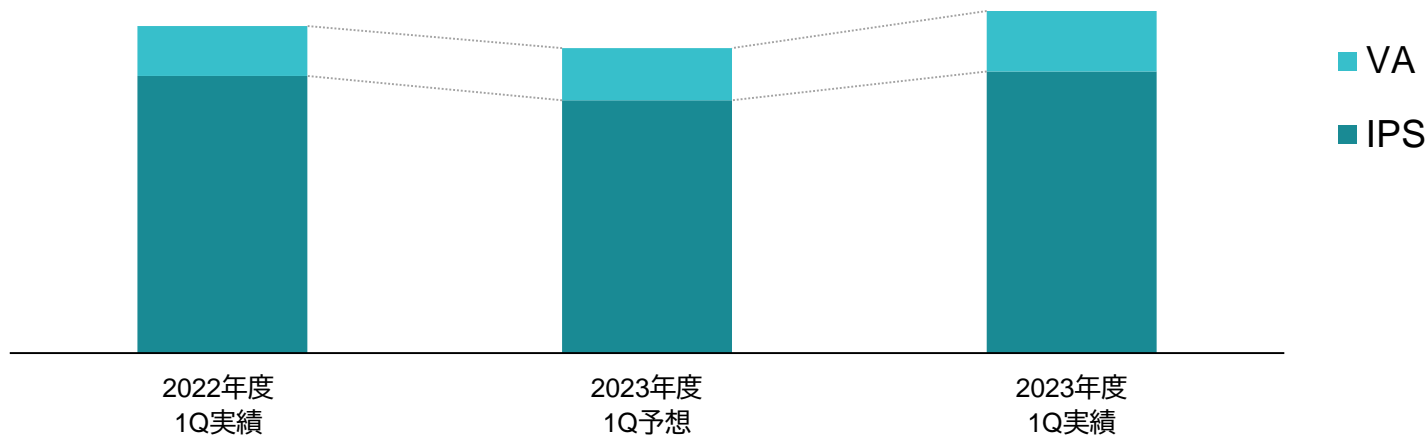
ディスプレイ材料		半導体材料		無機コロイド	
サンエバー	液晶配向材用ポリイミド	ARC®	半導体用反射防止コーティング材	スノーテックス	研磨剤(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊鋼板
		多層材料	半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)	オルガノゾル・モノマーゾル	電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤
		EUV材料	EUVプロセス材料	オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材

- ディ스플레이材料は、1Qで3%増収、業績予想比でも上ぶれ
- 半導体材料は、1Qで15%減収、業績予想比でも下ぶれ
- 無機コロイドは、1Qで3%増収、業績予想比で下ぶれ

主要製品	2023年度 1Q実績	2023年度 1Q予想
	前年同期比	前年同期比
サンエバー	+4%	-7%
ディスプレイ材料合計	+3%	-7%
ARC®	-18%	-11%
多層材料	-15%	-4%
EUV材料※1	+15%	-6%
半導体材料合計	-15%	-9%
スノーテックス	0%	+7%
オルガノゾル・モノマーゾル	-7%	+18%
オイル&ガス材料	+49%	+21%
無機コロイド合計	+3%	+8%
機能性材料セグメント合計	-4%	-6%

※1 EUV材料: EUV向け下層膜とSi-HMの合計

1Qはサンエバー合計で4%増収、業績予想比でも上ぶれ
 他モード(ラビングIPSなど)から光IPSへの転換は順調に進む



主要用途

- VA (Vertical Alignment) テレビ
- IPS (In-Plane Switching) スマートフォン、タブレット、PC、モニター、車載

モード別売上高成長率

	2023年度 1Q実績	
	前年同期比	業績予想比
VA	増収(+20~ +29%)	上ぶれ
IPS	増収(+0 ~ +9%)	上ぶれ
サンエバー合計(TN*含む)	+4%	上ぶれ

※ TN(Twisted Nematic) 主要用途はPC、モニター

【1Q】売上高-10億円、営業利益-14億円、固定費増加合計8億円

	(億円)		
	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比
売上高	218	208	-10
営業利益	79	65	-14

【1Q】増収・減益

ディスプレイ

光IPS

増収

(スマホ・大型モニター・車載向け増収)

ラビングIPS

横ばい

VA

増収(一部シェア拡大)

固定費増加1億円

【1Q】減収・減益

半導体

ARC®

減収

多層材料

減収

EUV材料

増収

(EUV下層膜が顧客生産増に伴い増収)

固定費増加6億円

【1Q】増収・増益

無機
コロイド

スノーテックス

横ばい(一般用途増収、研磨剤減収)

オルガノ・モノマーゾル

減収

オイル&ガス材料

増収

固定費増加1億円

【1Q】売上高+3億円、営業利益-1億円、固定費下ぶれ合計1億円(増益要因)

	(億円)		
	2023年度 1Q予想	2023年度 1Q実績	業績予想比
売上高	205	208	+3
営業利益	66	65	-1

【1Q】売上高・営業利益とも上ぶれ

ディス
プレイ

光IPS

売上高上ぶれ
(スマホ・大型モニター向け上ぶれ)

ラビングIPS

売上高上ぶれ

VA

売上高上ぶれ

【1Q】売上高・営業利益とも下ぶれ

半導体

ARC®

売上高下ぶれ

多層材料

売上高下ぶれ

EUV材料

売上高上ぶれ

固定費下ぶれ1億円(増益要因)

【1Q】売上高・営業利益とも下ぶれ

無機
コロイド

スノーテックス

売上高下ぶれ(一般用途・研磨剤下ぶれ)

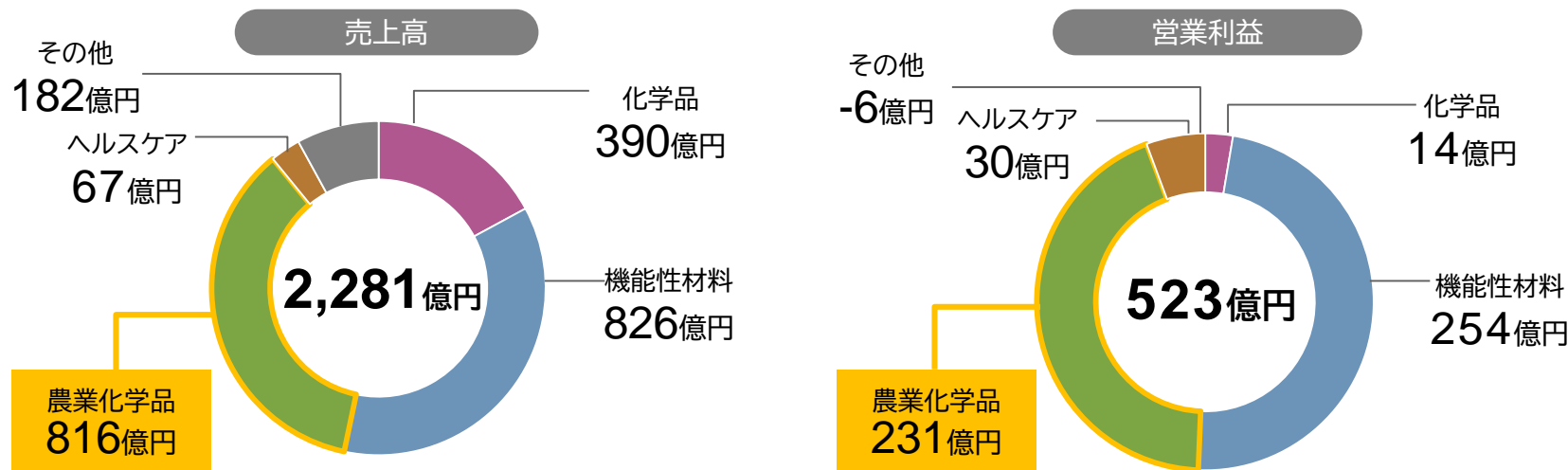
オルガノ・モノマーゾル

売上高下ぶれ

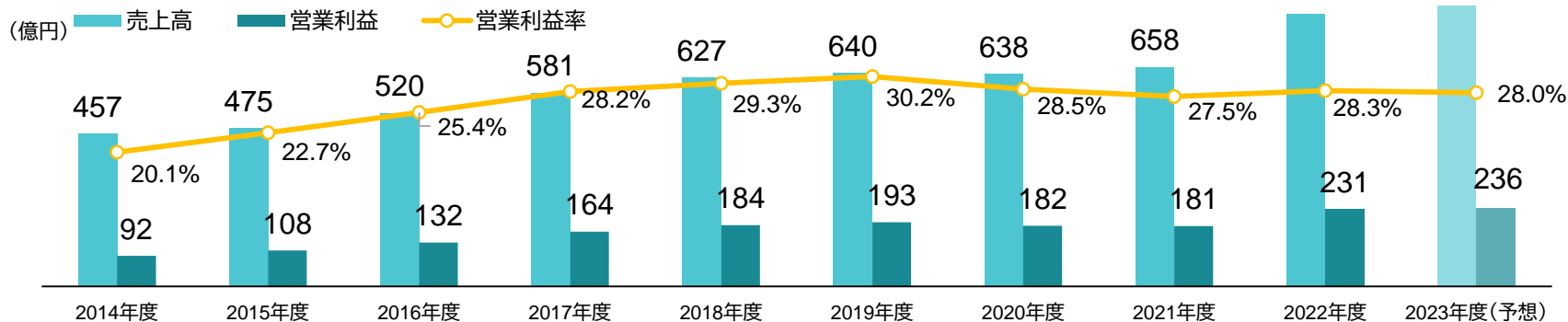
オイル&ガス材料

売上高上ぶれ

2022年度セグメント別業績



農業化学品セグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014~2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58,p59参照)

■ 1Qで5%減収、業績予想比でも下ぶれ

主要製品名 (農業:2022年度売上高順)	種類	2023年度 1Q実績	2023年度 1Q予想	
		前年同期比	前年同期比	
農薬	ラウンドアップ ^{※1}	除草剤	-14%	+2%
	アルテア	除草剤	-7%	+12%
	タルガ	除草剤	+10%	-17%
	ライメイ	殺菌剤	-60%	-46%
	グレーシア	殺虫剤	+87%	+58%
	ダイセン	殺菌剤	-21%	-23%
	パーミット	除草剤	+9%	-4%
動物薬	フルララネル	動物薬	-4%	-3%
セグメント合計 ^{※2}		-	-5%	-3%

参考

- 国内農薬販売 第1位
(2020年10月~2021年9月)

[ラウンドアップの現状説明会資料](#)

(2020年1月22日発表)

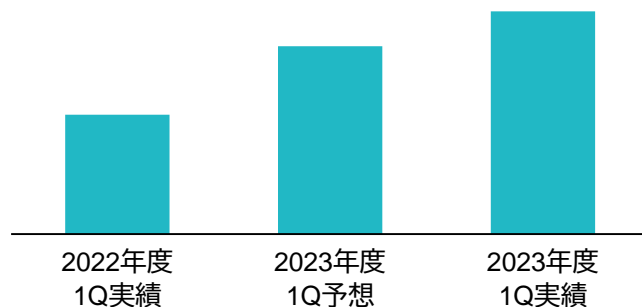
[農業化学品事業説明会資料](#)

(2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2023年度1Q実績のラウンドアップ売上高全体の33%を占める

※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

■ グレーシア売上高



参考

2022年度 決算説明資料(2023年5月15日発表)
Part2 p35 グレーシア売上高成長予想

【1Q】売上高-9億円、営業利益-2億円、固定費増加2億円

(億円)

	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比
売上高	197	188	-9
営業利益	68	66	-2

主要製品

ラウンドアップ(除草剤)	減収(天候不良によりML・ALともに数量減)
アルテア(除草剤)	減収(国内:流通在庫増加により数量減)
タルガ(除草剤)	増収(輸出:欧州で販売好調)
ライメイ(殺菌剤)	減収(輸出:22年度は1Qに販売が偏重)
グレーシア(殺虫剤)	増収(輸出:アジアでの拡販)
ダイセン(殺菌剤)	減収(輸出:22年度1Qは21年度からの後ろ倒し)
パーミット(除草剤)	増収
フルララネル(動物薬)	減収(原薬:21年度から22年度へ後ろ倒しにより減収、ロイヤリティ収入:増収)

【1Q】売上高-4億円、営業利益予想通り、固定費下ぶれ4億円(増益要因)

(億円)

	2023年度 1Q予想	2023年度 1Q実績	業績予想比
売上高	192	188	-4
営業利益	66	66	0

主要製品

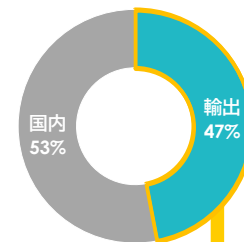
ラウンドアップ(除草剤)	売上高下ぶれ(天候不良によりML・ALともに下ぶれ)
アルテア(除草剤)	売上高下ぶれ(国内:流通在庫増加により下ぶれ)
タルガ(除草剤)	売上高上ぶれ(輸出:欧州で販売好調)
ライメイ(殺菌剤)	売上高下ぶれ
グレーシア(殺虫剤)	売上高上ぶれ(輸出:23年度2Qからの前倒し)
ダイセン(殺菌剤)	売上高上ぶれ
パーミット(除草剤)	売上高上ぶれ
フルララネル(動物薬)	売上高予想通り

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考
2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
2009	バルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
2009	プレバソン	殺虫剤	導入	米国デュポン社より導入
2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AII、2018年AIII上市、急成長
2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MSD社※1向けにブラバクト®原薬として出荷開始
2014	ブラバクト®※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2015	トレファノサイド	除草剤	導入	米国ゴーワン社がダウ社より買収、当社は国内販売独占権を継承
2017	ネクスター	殺菌剤	導入	スイスシンジェンタ社より導入
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入
2017	エグゾルト®※2	家畜動物用医薬品	-	9月米国MSD社による、欧州でのニワトリ用製品上市
2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市(ピーク時売上高目標100億円)
2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
2024	未定(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイカや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標35億円)
2025	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
2027	未定(イプトリアゾピリド)(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)

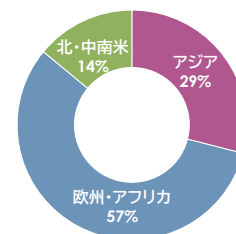
既存製品

新製品群
パイプライン

農業化学品セグメントの輸出比率(2022年度実績)※3



- 地域別分布

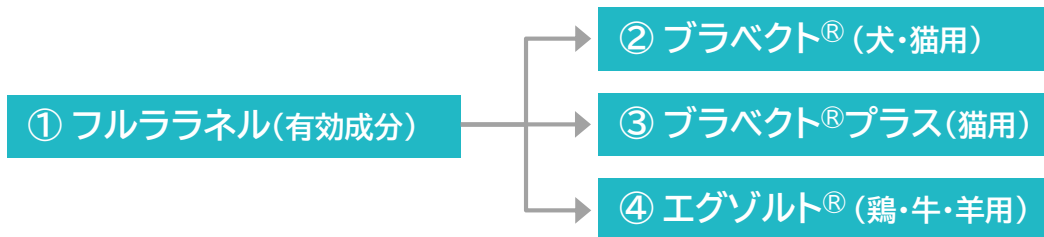


新製品群のピーク時売上高目標合計

310億円

※1 MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称 ※2 ブラバクト®・エグゾルト®:MSD社の販売製品名 ※3 フルララネルを含める

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(既存製品は1か月程度)



① フルララネル(Fluralaner)

- ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMSD社※1に供給
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中

② ブラベクト® (BRAVECTO®)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
 - 2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
 - 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
 - (猫)2016年7月欧州、以降米国、日本等上市
 - (犬)2017年1月米国・欧州等上市、2021年1月日本上市

③ ブラベクト®プラス (BRAVECTO® Plus)

- 猫向け内外寄生虫スポットオン合剤
 - 2018年7月欧州、以降米国等上市、2021年1月日本上市

④ エグゾルト® (EXZOLT®)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
 - 2017年9月欧州、以降韓国、中東等上市、2021年7月日本上市
- 牛向け
 - 2022年9月ブラジル上市、2023年4月メキシコ上市
- 羊向け
 - 2023年3月オーストラリア販売承認

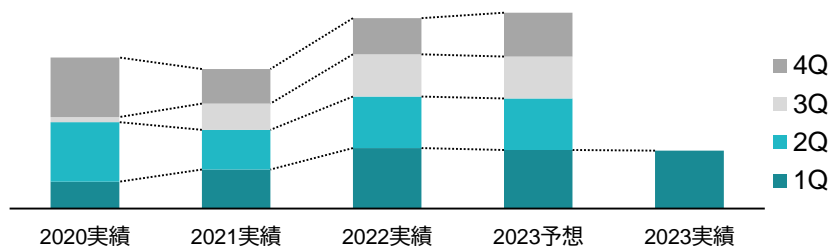
※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

※2 クリロコイタマダニは8週間

■ 当社のフルララネル売上高の構成

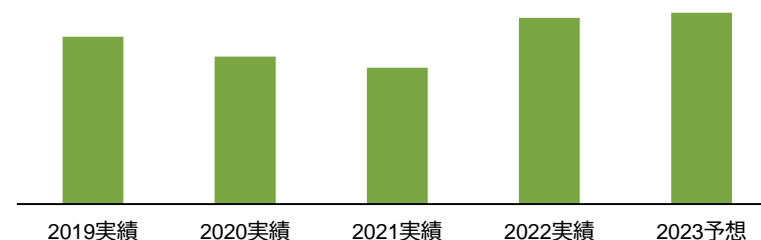
MSD社へのフルララネル販売 + MSD社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2020～2023年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



ロイヤリティ収入は、2020年度まで2・4Q計上であったが、会計方針の変更にともない、2021年度からは各四半期に計上されている(p57参照)

■ 2019～2023年度 売上高推移イメージ (RR収入含む)



- ・フルララネルの在庫調整は2021年度で完了
- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しと円安影響により大幅増収。実績為替レートは136円/ドル
- ・2023年度の想定為替レートは128円/ドル

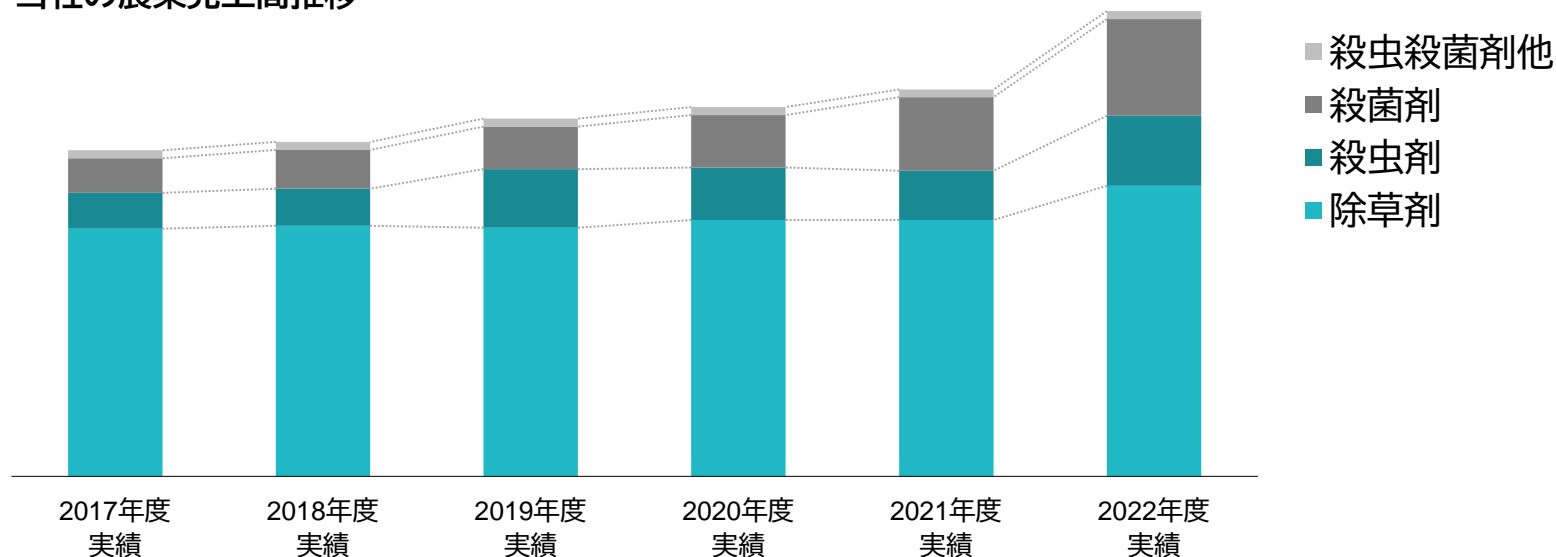
■ ブラベクト®の拡大に向けたMSD社の開発状況

- フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外部寄生虫薬をMSD社が開発中
- 2023年5月 犬向け外部寄生虫注射剤BRAVECTO Quantum™が豪州にて承認(特徴:12か月※1の効果持続性)

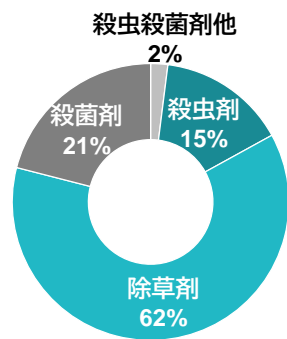
※1 クライロコイタマダニは11か月

既存剤の拡販、自社開発剤の上市、剤の買収・導入により、製品ポートフォリオの拡充を進める

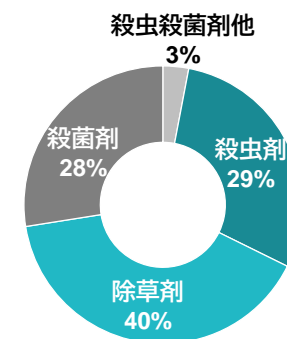
■ 当社の農薬売上高推移



■ 当社の農薬売上高構成比(2022年度)



【参考】
グローバル農薬市場売上高
構成比(2021年1-12月)



- グローバルな安定供給と製造コスト削減を目指した新たな原体生産拠点
- 計画通り設立完了し、2022年度よりNBRを連結子会社に追加。2023年3月から商業稼働を開始

Nissan Bharat Rasayan Private Limited(NBR)概要

本社所在地	ハリヤナ(Haryana)州グルガオン(Gurgaon)(ニューデリー近郊)
工場所在地	グジャラート(Gujarat)州サイカ(Saykha)に新設 (土地は同州産業開発公社(GIDC)より賃借)
営業開始日	2020年4月1日
事業内容	当社の農業(グレーシア、ライメイ等)原体を製造し、 当社へ販売
従業員数	約120名(2023年4月1日時点)
工場稼働時期	2022年度4Qより稼働開始
株主	当社70%、Bharat Rasayan Ltd(略称BRL)30%
取締役会	当社指名5名、BRL指名2名、中立1名、合計8名

Bharat Rasayan Ltd(BRL)概要

設立	1989年(インド大手農業製造販売会社)
上場	インド国立証取(NSE)、ボンベイ証取(BSE)
主要株主	グプタ(Sat Narain Gupta)会長等創業家一族74.99%
損益状況	2022年度売上高12,343百万ルピー、税引後利益1,246百万ルピー
工場	グジャラート州(Gujarat)ダヘジ(Dahej)、ハリヤナ州(Haryana) ロータク(Rohtak)の2工場
当社との関係	一部当社品を受託生産、グループ会社のBharat Certis Agriscienceが タルガ、パルサー、パーミットをインド国内で販売

資金計画 (2022年5月発表時点)

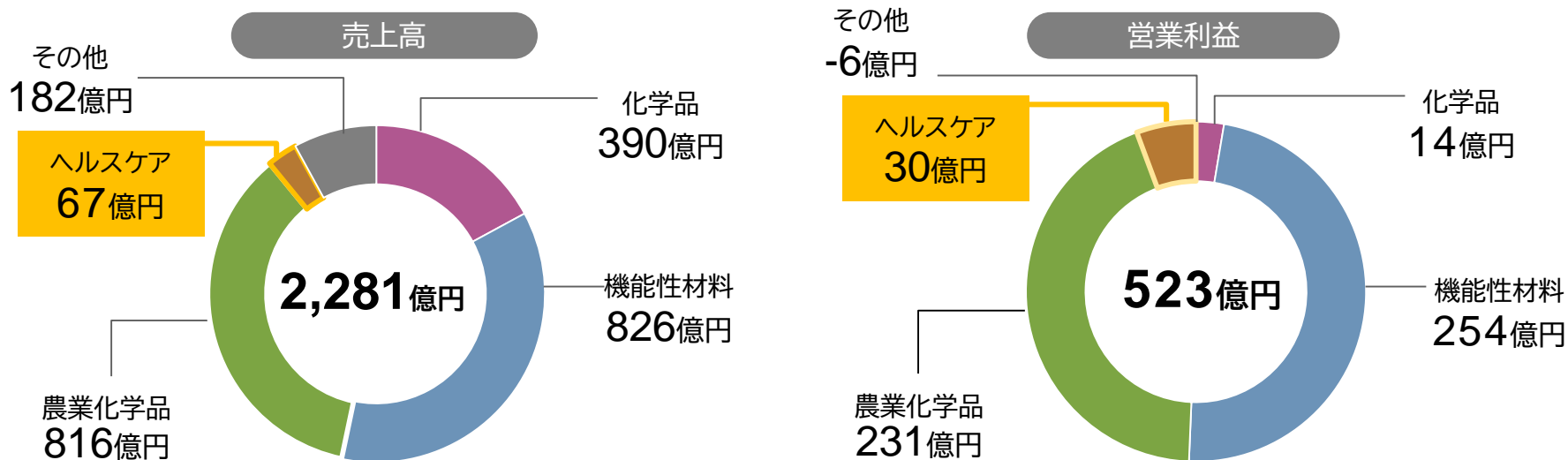
(億円)

設備投資	60	資本金	23
運転資金他	28	当社貸付	65
所要資金合計	88	資金調達合計	88

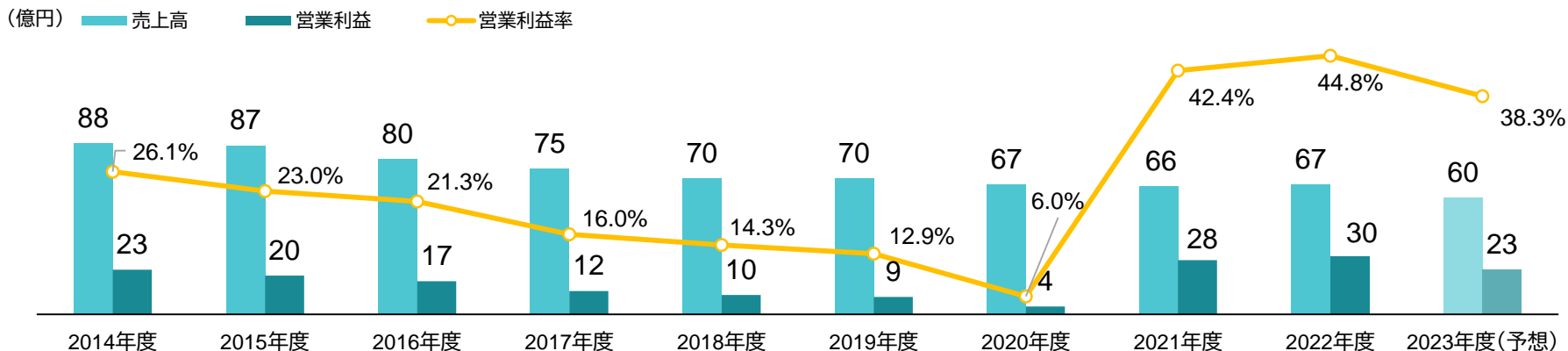
当社メリット

- 信頼できる経験豊富な現地パートナーの協力体制
- 有効成分の供給源の多様性・安全性確保と、原料不足リスクの低減
- 国内工場に比べて低い製造コスト
- すぐに利用できる工場用地(借地権の正式認可手続き完了済み)
- 既存の現地企業のM&Aに比べ、経営・財務リスクを大幅に軽減

2022年度セグメント別業績



ヘルスケアセグメント業績推移※1



※1 2022年4月に組織改定を実施。2014～2020年度実績は旧セグメント区分。2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58,p59参照)

リバロ

2003年に興和から上市した高コレステロール血症治療薬。現在、世界30か国以上で販売中

売上高の推移	2020年度※2	2021年度	2022年度	2023年度 予想
前年同期比増減率	-30%	-17%	0%	-7%
うち国内	+6%	+30%	-17%	-29%
うち海外	-35%	-28%	+7%	-1%
2012年度比増減率※1	-73%	-78%	-78%	-79%

※1 2013年8月 国内物質特許満了。2012年度がリバロ売上高(国内外計)のピーク ※2 2020年8月 欧州で市場独占期間満了

ファインテック

課題解決型受託事業として、前臨床から商業生産まで新薬の原薬・中間体製造プロセス研究を受託
特に近年は高活性・高付加価値ジェネリック原薬を中心に新規案件獲得に注力

■ 高付加価値ジェネリック原薬の販売状況

販売開始年度	原薬	用途
2016	マキサカルシトール	尋常性乾癬／二次性副甲状腺機能亢進症治療
2017	エルデカルシトール	骨粗しょう症治療

■ ファインテック売上高の推移 (2014～2023年度)

(億円)

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 予想
18	23	24	25	26	29	38	42	43	38

【1Q】売上高+3.0億円、営業利益+3.3億円

(億円)

	2022年度 1Q実績	2023年度 1Q実績	前年同期比
売上高	16.5	19.5	+3.0
ヘルスケア	8.3	6.1	-2.2
ファインテック	8.2	13.4	+5.2
営業利益	7.6	10.9	+3.3
ヘルスケア	3.9	2.8	-1.1
ファインテック	3.7	8.1	+4.4

※ p12,p13,p55,p56では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア

【1Q】減収・減益

リバロ 減収(国内・輸出とも減収)

ファイン
テック

【1Q】増収・増益

今期販売は1Q偏重により増収

【1Q】売上高+0.7億円、営業利益+1.2億円

(億円)

	2023年度 1Q予想	2023年度 1Q実績	業績予想比
売上高	18.8	19.5	+0.7
ヘルスケア	6.1	6.1	0.0
ファインテック	12.7	13.4	+0.7
営業利益	9.7	10.9	+1.2
ヘルスケア	2.7	2.8	+0.1
ファインテック	7.0	8.1	+1.1

※ p12,p13,p55,p56では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

ヘルスケア

【1Q】売上高・営業利益ともに予想通り

リバロ 売上高予想通り(国内上ぶれ、輸出下ぶれ)

ファイン
テック

【1Q】売上高・営業利益ともに上ぶれ

ジェネリック原薬上ぶれで売上高上ぶれ

Contents

01

2023年度第1四半期 連結決算報告

P3

02

2023年度第1四半期 セグメント概況

P11

03

ESGトピックス

P39

04

参考資料

P44

E

(環境)

S

(社会)

- 2021年4月 ダイバーシティステートメントおよびダイバーシティビジョンを設定
- 2022年5月 2050年にカーボンニュートラルへ
温室効果ガス(GHG)排出削減長期目標を設定(詳細はp43参照)
- 2022年6月 メラミン停止によるGHG削減(26千トン、2018年度実績の約7%に相当)
- 2022年6月 気候変動対策委員会設置
- 2022年9月 「[統合レポート2022](#)」を発行

G

(ガバナンス)

- 2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)
- 2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
- 2022年6月 役員報酬体系にESG指標を組入れ(基本報酬65%、業績報酬28%、株式報酬7%
業績報酬28%のうち、利益連動部分90%、ESG連動部分10%)
- 2023年6月 女性取締役(社外)2名選任(選任後、取締役は計10名、うち社外4名)
- 2023年6月 「[コーポレートガバナンス報告書](#)」を更新

Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index

- 2022年12月
5年連続で構成銘柄に選定

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

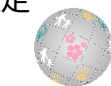
- 2022年3月
4年連続で構成銘柄に選定



FTSE

- 2023年6月 FTSE4Good Index Series、FTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に4年連続選定
- 2023年6月 FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に2年連続選定

※ FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産化学株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



FTSE Blossom
Japan



FTSE4Good

健康経営優良法人 -ホワイト500-

- 2023年3月 7年連続認定



MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

- 2023年6月 4期連続構成銘柄に選定

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

※ MSCI指数への日産化学株式会社の組み入れ、および本ページにおけるMSCIロゴ、商標、サービスマーク、または指数名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による日産化学株式会社の後援、保証、または販売促進ではありません。MSCI指数は、MSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCI指数の名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

「子育てサポート企業」くるみん

- 2023年1月 2回連続認定



GPIFの運用機関が選ぶ統合報告書

- 2022年2月 「優れた統合報告書」に2年連続選定
- 2023年2月 「改善度の高い統合報告書」に選定

気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)

- 2020年8月に賛同表明



GXリーグ

- 2023年2月に賛同表明
- 2023年4月から参画



2027年の企業像実現のため、当社が取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定
取り組みを推進することで社会とともに持続的な成長を目指す

▶▶▶1

人びとの暮らしに役立つ
新たな価値の提供

▶ 日産化学サステナブル
アジェンダ※1

社会課題解決に貢献する製品・
サービスの全売上に占める割合
55%以上維持

※1 社会課題解決に貢献する製品・サービスの提供により、
「地球と人の未来のためにできること」を追求する計画

▶▶▶2

自社事業基盤の強化

▶ 人材の確保・育成
人材育成に関する社員意識調査
肯定回答率
65%以上

▶ ダイバーシティ推進
研究所女性総合職比率 **18%以上**

▶▶▶3

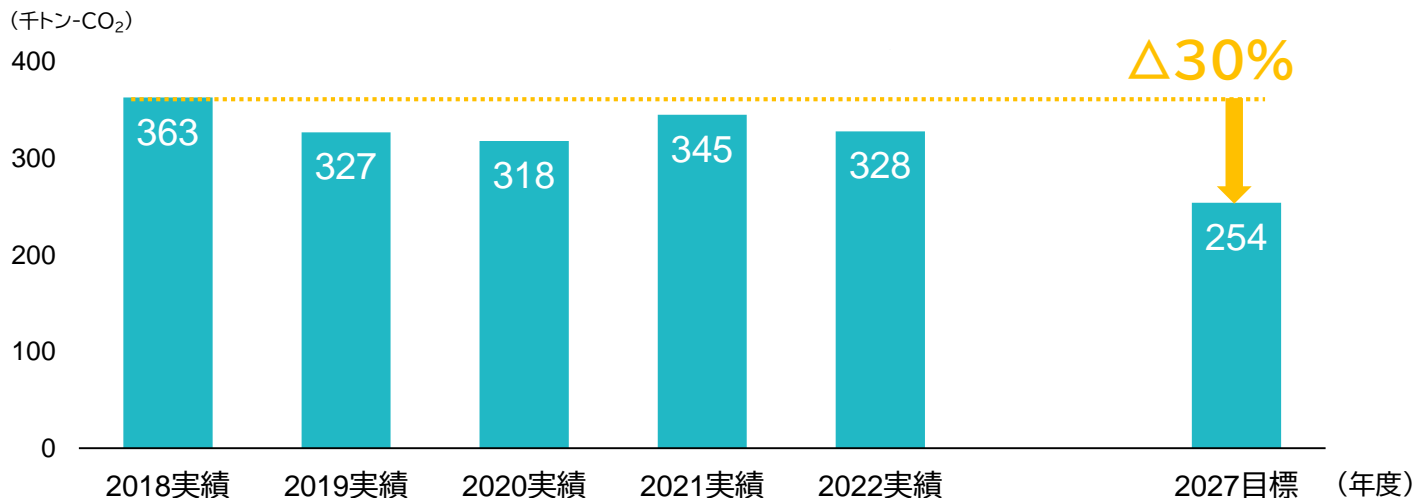
レスポンシブル・ケア活動の
継続的強化

▶ GHG排出削減目標
2018年度比 **30%以上削減**

当社グループの最重要課題

コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの強化

- 2050年のカーボンニュートラル実現に向け、従来の取り組みに加え、生産技術の改善や再生エネルギー導入などに注力する
- GHG排出量2027年度目標:2018年度比30%削減(SCOPE1+2)



他社とのGHG排出量の比較

(千トン-CO₂)

年度	2011	2018	2019	2020	2021
日産化学	448	363	327	318	345
大手総合化学4社平均 (単体ベース)	-	-	5,845	5,581	-

中期経営計画 Vista2027 (2022-2027年度)における取り組み

- 硝酸プラントからのN₂O排出ゼロ
(予定投資額 500百万円 変動費50百万円/年)
- メラミン製造中止
- 小野田工場燃料転換
- ICP本格導入によるGHG排出削減推進
- フロン機器の削減
- 省エネ機器への更新

Contents

01

2023年度第1四半期 連結決算報告

P3

02

2023年度第1四半期 セグメント概況

P11

03

ESGトピックス

P39

04

参考資料

P44

中期経営計画 Vista2027(2022-2027年度)

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

		2021年度 実績 ^{※1}	2022年度 実績	2023年度 予想	2024年度 中計	2027年度 中計	2024年度 vs. 2021年度	2027年度 vs. 2021年度
化学品	売上高	376	390	413	376	401	0	+25
	営業利益	38	14	32	35	39	-3	+1
機能性材料	売上高	817	826	875	1,029	1,172	+212	+355
	営業利益	276	254	265	321	380	+45	+104
農業化学品	売上高	658	816	842	778	823	+120	+165
	営業利益	181	231	236	217	210	+36	+29
ヘルスケア	売上高	66	67	60	72	115	+6	+49
	営業利益	28	30	23	21	43	-7	+15
卸売・その他・ 調整額	売上高	163	182	183	295	339	+132	+176
	営業利益	-13	-6	-9	-9	-2	+4	+11
企画本部 ^{※2}	売上高	0	0	0	13	44	+13	+44
	営業利益	-49	-55	-57	-47	-47	+2	+2
合計	売上高	2,080	2,281	2,373	2,550	2,850	+470	+770
	営業利益	510	523	547	585	670	+75	+160

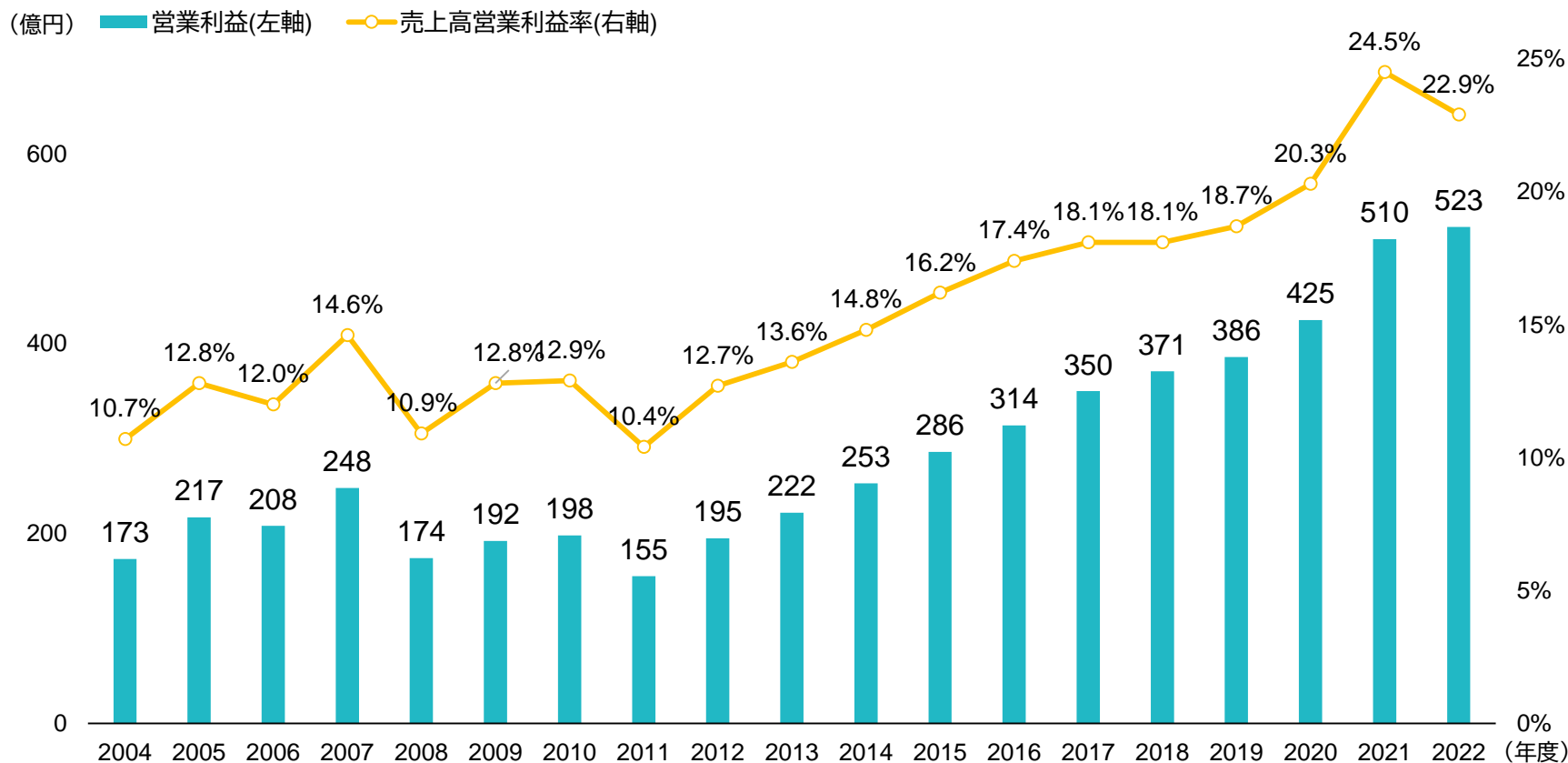
※1 2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58,p59参照) ※2 企画本部は卸売・その他・調整額の内数

(億円)

ヘルスケア事業部の組織改定の影響	2024年度 中計	2027年度 中計
研究開発費 企画本部移管影響	13	13

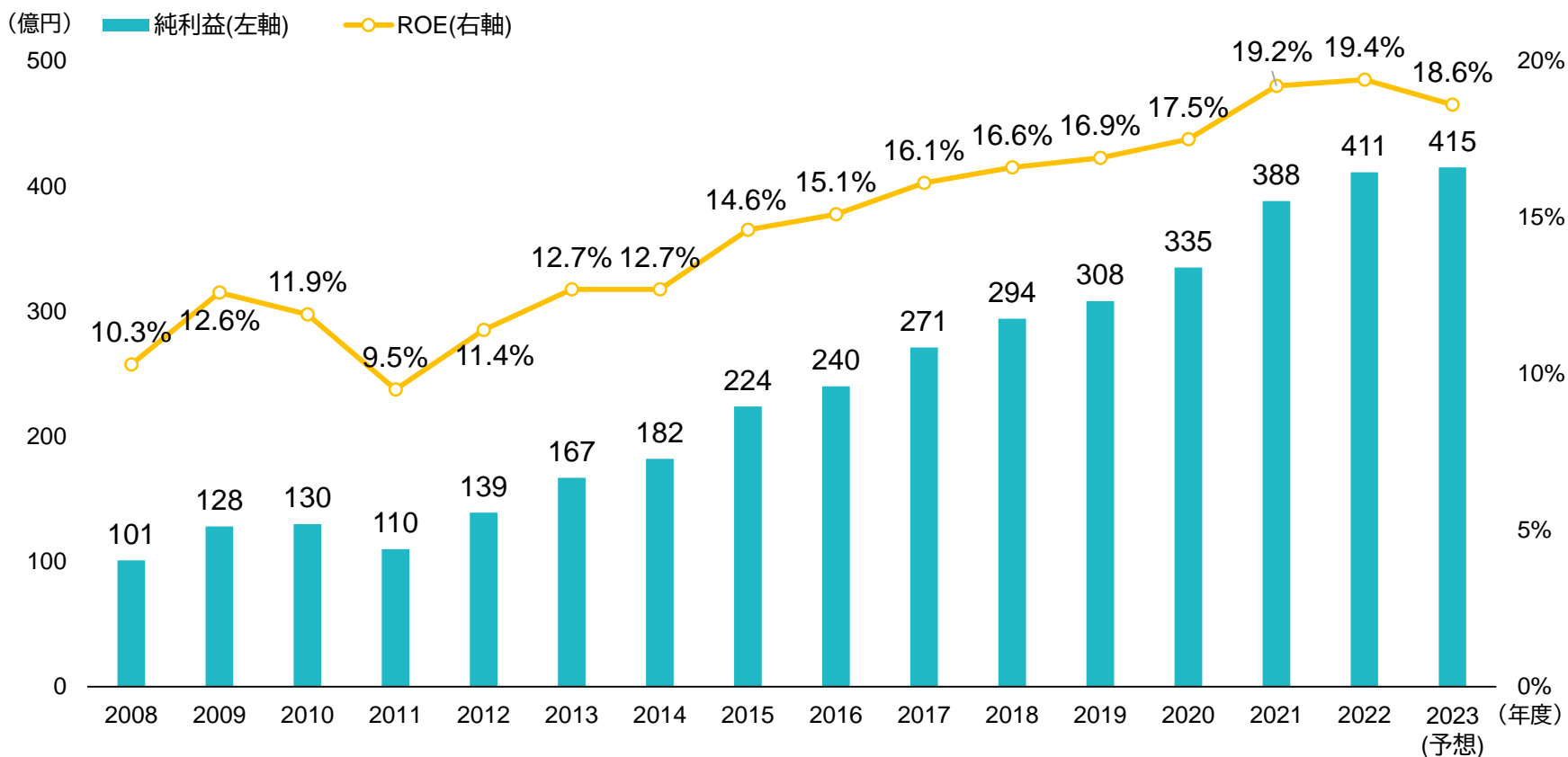
売上高営業利益率の推移

- 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持(2003年度以降20年連続10%以上)
- 2022年度実績は22.9%

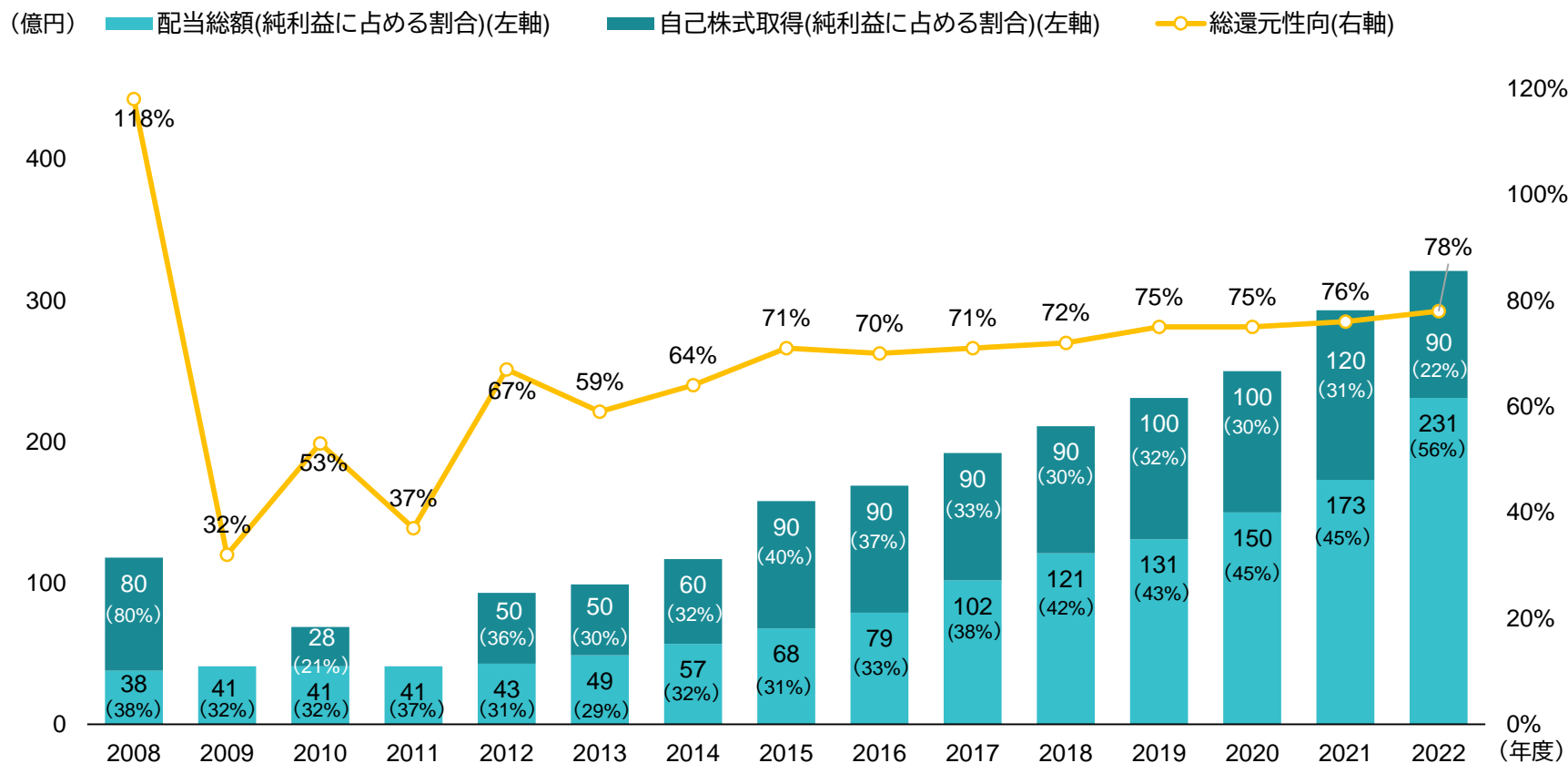


※ 2021年度実績:会計方針の変更影響を含む(p57参照)

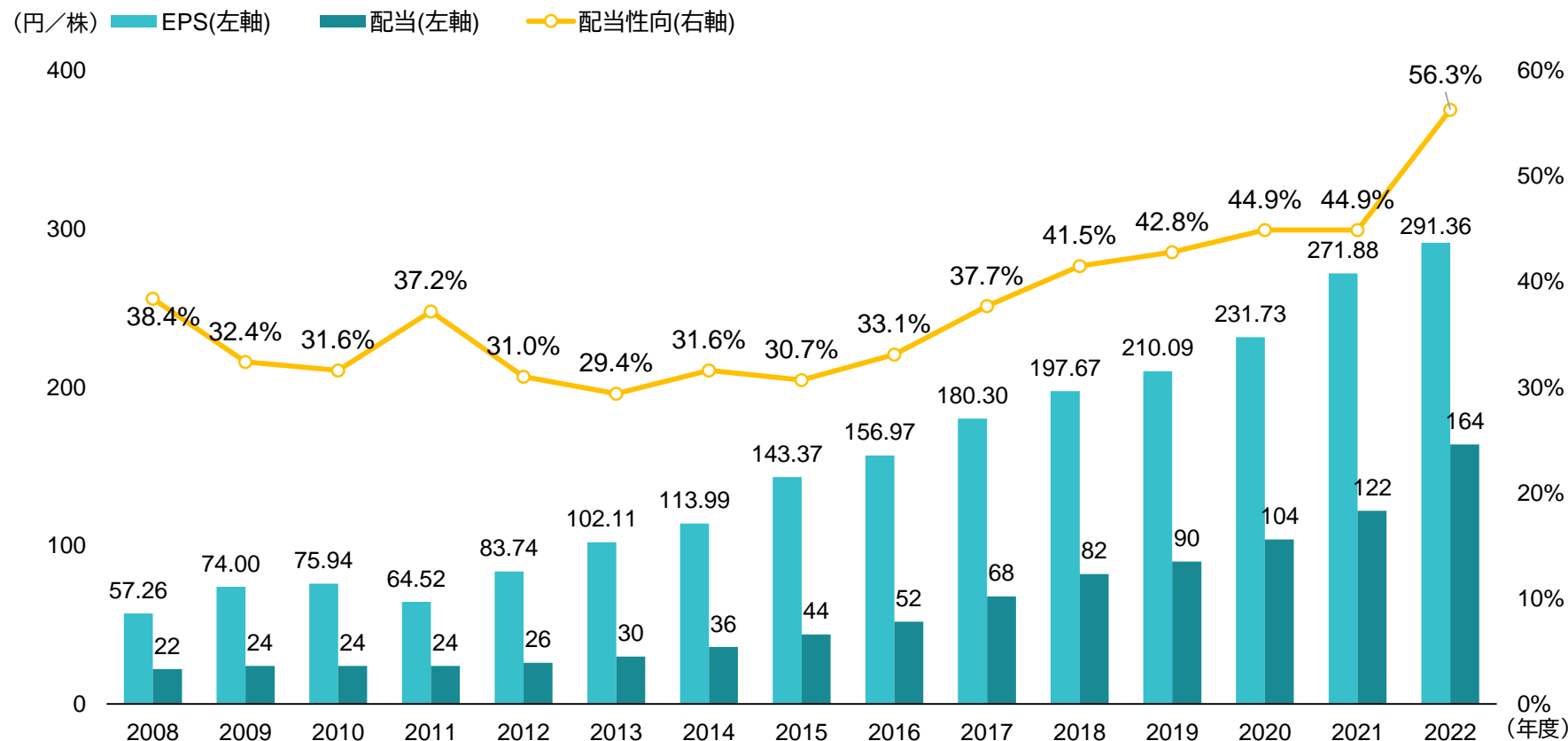
- ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- 前中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持を目標に掲げ、達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では18%以上維持が目標
- 2023年度予想は18.6%



- 前中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標で、全て達成
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では75%が目標(2022年度実績は78%)



- 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2021年度実績は44.9%
- 新中期経営計画(2022-2027年度)では45%から55%に引き上げ、直接的な株主還元をより重視
- 2012年度以降2022年度まで11期連続増配



ROE向上を目的に2006年度より開始。2006-22年度取得総額1,135億円、4,610万株(取得開始前発行済株式の24.6%)。取得株はすべて消却済。今後も自己株式を継続的に取得し、株主還元を強化
2023年5月に自己株式取得50億円を発表、2023年6月に予定通り完了(取得株数:805千株)

2006-2022年度 自己株式取得実績(2009年度、2011年度は自己株式取得なし)

年度	2006	2007	2008	2010	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	3,500	3,399	7,355	2,167	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	1,829	2,033	1,356	46,104
取得価額総額(億円) ^{※1}	47	50	80	28	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	90	1,135
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	3,000	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	1,000	2,000	1,700	46,335
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	171	165	161	158	156	154	151	149	146	145	143	141	-
期末自己株式数(千株) ^{※2}	1,367	1,233	1,660	885	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	1,352	1,384	1,029	-
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	53	67	59	64	71	70	71	72	75	75	76	78	-

2018-2023年度 自己株式取得・消却状況

年度	2018			2019			2020			2021			2022			2023
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期 ^{※3}
自己株式取得総数(千株) ^{※1}	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334	495	1,829	1,262	771	2,033	683	673	1,356	805
取得価額総額(億円) ^{※1}	50	40	90	60	40	100	70	30	100	70	50	120	50	40	90	50
自己株式消却総数(千株) ^{※3}	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	1,000	0	1,000	2,000	0	2,000	1,700	0	1,700	1,500

※1 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を除く

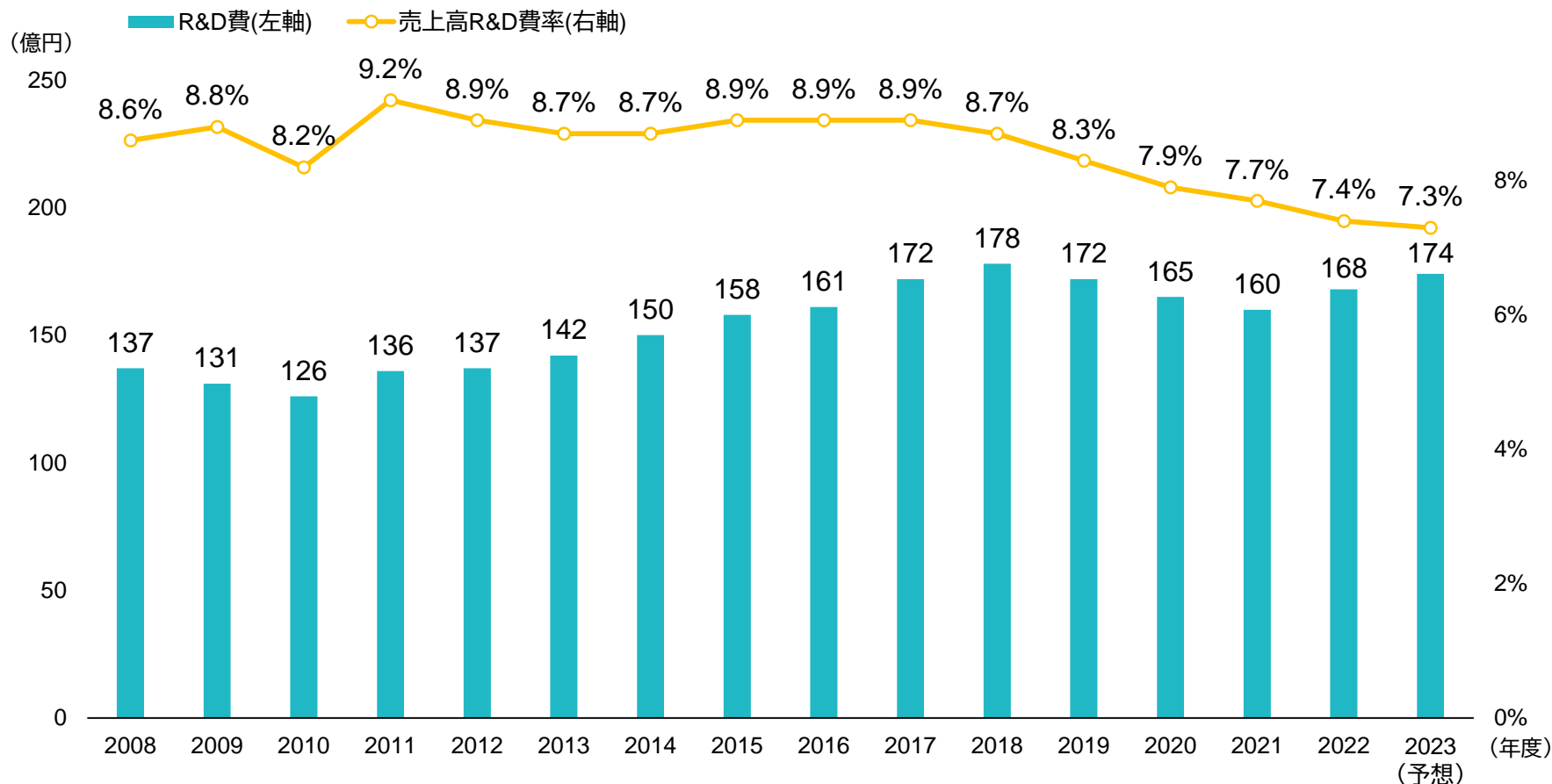
※2 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得を含む

※3 2023年度上期の自己株式消却は、2023年5月12日及び8月10日消却分

キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準 = 必要下限額 + 流動性リスク対応 [1/3×(長期借入金年間返済予定額 + 短期借入残)] + 偶発リスク対応

- 独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業として、研究開発を重視
- 売上高研究開発費率は7-9%と高水準を維持
- 2020-2021年度はコロナ禍で一時的にR&D費用減

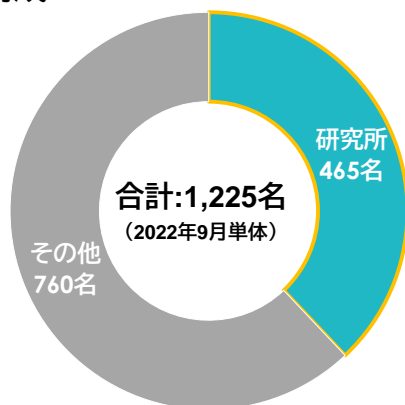


- R&Dに多額の投資を行ってもなお、会社全体で高い営業利益率を確保
- 総合職の約40%は研究開発に関わる人材

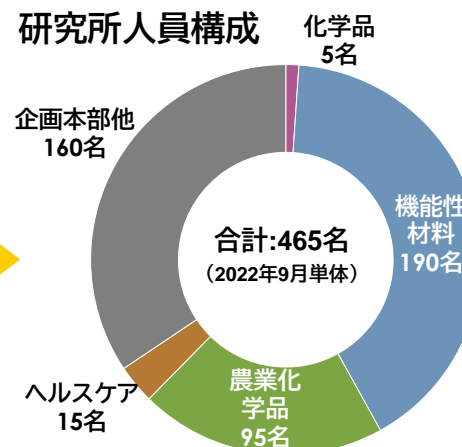
セグメント別研究開発費

セグメント	2022年度 実績				
	売上高 (億円)	営業利益 (億円)	売上高 営業利益率	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率
化学品	390	14	3.6%	3	0.8%
機能性材料	826	254	30.8%	76	9.2%
農業化学品	816	231	28.3%	43	5.3%
ヘルスケア	67	30	44.8%	4	6.0%
企画本部他	-	-	-	42	-
合計(企画本部他含む)	2,281	523	22.9%	168	7.4%

総合職 人員構成



セグメント別 研究所人員構成



※ 表記している人数は概数

長期業績推移

(億円)

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (予想)
売上高	1,614	1,691	1,744	1,692	1,602	1,490	1,542	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,281	2,373
営業利益	173	217	208	248	174	192	198	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	523	547
経常利益	174	213	212	244	169	192	194	159	205	237	264	295	317	362	391	400	439	537	558	555
純利益	113	137	140	155	101	128	130	110	139	167	182	224	240	271	294	308	335	388	411	415
EBITDA	269	316	305	345	276	301	303	259	291	308	338	383	403	455	480	492	530	612	633	676
売上高営業利益率	10.7%	12.8%	12.0%	14.6%	10.9%	12.8%	12.9%	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	22.9%	23.1%
ROE	15.2%	16.1%	14.7%	15.6%	10.3%	12.6%	11.9%	9.5%	11.4%	12.7%	12.7%	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	16.9%	17.5%	19.2%	19.4%	18.6%
EPS(円/株)	59.77	72.73	75.43	85.15	57.26	74.00	75.94	64.52	83.74	102.11	113.99	143.37	156.97	180.30	197.67	210.09	231.73	271.88	291.36	297.61
配当(円/株)	11	15	20	20	22	24	24	24	26	30	36	44	52	68	82	90	104	122	164	164
配当性向	18.4%	20.6%	26.5%	23.5%	38.4%	32.4%	31.6%	37.2%	31.0%	29.4%	31.6%	30.7%	33.1%	37.7%	41.5%	42.8%	44.9%	44.9%	56.3%	55.1%
自己株式取得	-	-	47	50	80	-	28	-	50	50	60	90	90	90	90	100	100	120	90	-
総資産	1,694	1,832	1,773	1,727	1,723	1,814	1,834	1,901	1,992	2,080	2,239	2,282	2,317	2,460	2,470	2,495	2,655	2,797	2,987	-
純資産	800	936	993	1,012	968	1,077	1,124	1,196	1,267	1,378	1,513	1,569	1,637	1,764	1,821	1,855	2,006	2,080	2,215	-
現預金	43	85	110	76	97	148	211	279	319	308	313	353	357	377	362	306	324	347	296	-
有利子負債	446	415	324	344	455	421	399	389	381	361	351	331	308	286	266	246	227	227	273	-
自己資本比率	46.4%	50.2%	55.3%	58.0%	55.5%	58.7%	60.7%	62.4%	63.0%	65.7%	66.9%	68.1%	69.9%	71.0%	73.0%	73.7%	74.9%	73.6%	73.1%	-
設備投資	66	92	121	109	139	101	96	83	79	88	98	102	143	137	99	157	158	110	203	217
減価償却費	96	99	97	97	102	110	104	105	95	85	85	97	89	105	109	105	104	102	110	129
R&D	86	92	99	125	137	131	126	136	137	142	150	158	161	172	178	172	165	160	168	174
同 売上高比率	5.3%	5.4%	5.7%	7.4%	8.6%	8.8%	8.2%	9.2%	8.9%	8.7%	8.7%	8.9%	8.9%	8.9%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.4%	7.3%

※ 2021- :会計方針の変更影響を含む(p57参照)

セグメント別売上高・営業利益推移

売上高(A)

(億円)

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (予想)
化学品	369	345	355	343	343	348	349	357	343	319	376	390	413
機能性材料	340	374	428	494	518	528	588	630	655	716	817	826	875
農業化学品	338	354	391	457	475	520	581	627	640	638	658	816	842
ヘルスケア	100	127	116	88	87	80	75	70	70	67	66	67	60
卸売	448	466	507	544	556	552	595	679	679	698	804	991	1,053
その他	200	212	214	209	209	240	215	246	224	238	236	264	307
調整額	-309	-340	-374	-423	-419	-465	-469	-560	-543	-585	-877	-1,073	-1,177
合計	1,486	1,538	1,637	1,712	1,769	1,803	1,934	2,049	2,068	2,091	2,080	2,281	2,373

営業利益(B)

化学品	16	19	19	19	39	38	34	30	13	15	38	14	32
機能性材料	48	72	88	120	120	125	142	150	170	224	276	254	265
農業化学品	44	50	62	92	108	132	164	184	193	182	181	231	236
ヘルスケア	46	52	49	23	20	17	12	10	9	4	28	30	23
卸売	13	14	15	17	18	17	18	20	21	25	29	37	35
その他	3	7	8	6	5	10	6	9	7	8	7	9	9
調整額	-15	-19	-19	-24	-24	-25	-26	-32	-27	-33	-49	-52	-53
合計	155	195	222	253	286	314	350	371	386	425	510	523	547

営業利益率(B)/(A)

化学品	4.3%	5.5%	5.4%	5.5%	11.4%	10.9%	9.7%	8.4%	3.8%	4.7%	10.1%	3.6%	7.7%
機能性材料	14.1%	19.3%	20.6%	24.3%	23.2%	23.7%	24.1%	23.8%	26.0%	31.3%	33.8%	30.8%	30.3%
農業化学品	13.0%	14.1%	15.9%	20.1%	22.7%	25.4%	28.2%	29.3%	30.2%	28.5%	27.5%	28.3%	28.0%
ヘルスケア	46.0%	40.9%	42.2%	26.1%	23.0%	21.3%	16.0%	14.3%	12.9%	6.0%	42.4%	44.8%	38.3%
卸売	2.9%	3.0%	3.0%	3.1%	3.2%	3.1%	3.0%	2.9%	3.1%	3.6%	3.6%	3.7%	3.3%
その他	1.5%	3.3%	3.7%	2.9%	2.4%	4.2%	2.8%	3.7%	3.1%	3.4%	3.0%	3.4%	2.9%
合計	10.4%	12.7%	13.6%	14.8%	16.2%	17.4%	18.1%	18.1%	18.7%	20.3%	24.5%	22.9%	23.1%

セグメント資産

(2022年度)(D)

化学品	343
機能性材料	613
農業化学品	1,038
ヘルスケア	77
卸売	368
その他	136
調整額	412
合計	2,987

ROA(2022年度)

(B)/(D)

化学品	4.1%
機能性材料	41.4%
農業化学品	22.3%
ヘルスケア	39.0%
卸売	10.1%
その他	6.6%
合計	17.5%

※ 2011：旧セグメント(2011年6月組織変更前), 2012-：新セグメント(2011年6月組織変更後)

※ 売上高はセグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 2021-：会計方針の変更による売上高減少を含む(p57参照)

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度・2022年度の実績値、2023年度の予想値はp45に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2020年度実績までは旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58,p59参照)

※ 2019-：新方式セグメント別営業利益

1. 2020年度より変更(売上高は変更なし)

2. 2019年度は遡及して再計算

3. 連結調整(固定資産未実現利益、棚卸資産未実現利益など)は、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理

セグメント別売上高 四半期推移(2020年度～2023年度1Q)

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 実績					2023年度 実績	2023年度 予想			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	1Q	2Q	下期	年間
化学品	74	73	83	89	319	88	83	105	100	376	104	94	101	91	390	91	94	98	221	413
ファインケミカル	27	27	28	32	114	32	30	37	32	131	42	35	33	28	138	30	31	34	82	147
基礎化学品	47	46	55	57	205	56	53	68	68	245	62	59	68	63	252	61	63	64	139	266
機能性材料	171	175	192	178	716	200	196	209	212	817	218	202	206	200	826	208	205	212	458	875
農業化学品	146	111	63	318	638	134	116	119	289	658	197	160	131	328	816	188	192	176	474	842
ヘルスケア	15	15	14	23	67	11	22	20	13	66	17	15	16	19	67	20	19	13	28	60
ヘルスケア	7	8	6	8	29	6	8	5	6	25	8	6	4	6	24	6	6	6	11	22
ファインテック	8	7	8	15	38	4	15	14	8	41	8	10	12	13	43	13	13	8	17	38
卸売	182	155	178	183	698	178	186	222	218	804	237	240	270	244	991	243	237	250	566	1,053
その他	48	46	68	76	238	49	55	61	71	236	65	59	67	73	264	64	68	60	179	307
調整額	-143	-123	-161	-158	-585	-195	-205	-241	-236	-877	-255	-258	-294	-266	-1,073	-265	-267	-271	-639	-1,177
合計	493	452	437	709	2,091	465	453	495	667	2,080	583	512	497	689	2,281	549	548	538	1,287	2,373

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 2020年度より、ファインオキシコールを基礎化学品からファインケミカルへ移管している

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ(旧社名：日本燐酸、硫酸の製造。2023年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度・2022年度の実績値、2023年度の予想値はp45に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2020年度実績は旧セグメント区分(p58,p59参照)

セグメント別営業利益 四半期推移(2020年度～2023年度1Q)

(億円)

	2020年度 実績					2021年度 実績					2022年度 実績					2023年度 実績	2023年度 予想			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	1Q	2Q	下期	年間
化学品	7	-8	7	9	15	13	-1	13	13	38	17	-6	4	-1	14	9	9	3	20	32
機能性材料	53	54	63	54	224	69	62	76	69	276	79	60	69	46	254	65	66	61	138	265
農業化学品	40	38	-13	117	182	40	29	30	82	181	68	53	31	79	231	66	66	54	116	236
ヘルスケア	-1	1	0	4	4	3	11	9	5	28	8	7	6	9	30	11	10	5	8	23
ヘルスケア	-2	-1	-4	-2	-9	2	3	2	2	8	4	2	1	2	9	3	3	2	3	7
ファインテック	2	2	3	6	13	1	8	8	3	20	4	5	6	7	21	8	7	3	5	16
卸売	7	5	7	6	25	7	6	9	7	29	10	9	10	8	37	9	7	8	20	35
その他	0	0	4	4	8	1	-1	2	5	7	1	0	2	6	9	2	2	-1	8	9
調整額	-8	-8	-12	-5	-33	-14	-12	-13	-10	-49	-10	-14	-16	-12	-52	-12	-15	-14	-24	-53
合計	98	82	56	189	425	119	94	126	171	510	173	109	106	135	523	150	145	116	286	547

※ ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※ 卸売：日星産業、その他：日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ(旧社名：日本燐酸。硫酸の製造。2023年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額：企画本部ほか

※ 企画本部の2021年度・2022年度の実績値、2023年度の予想値はp45に記載

※ 2022年4月に組織改定を実施。2020年度実績は旧セグメント区分、2021年度実績はセグメント区分変更後の数値に置き換え済み(p58,p59参照)

会計方針の変更(2021年度～)

2021年度より会計方針を変更。本ページは2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし

1. 方針の変更

「収益認識に関する会計基準(企業会計基準29号)」を適用

2. 適用時期 2021年4月1日より

3. 方針変更に伴うPL、BSへの主な影響

2021年度のPLへの影響額(前年同期比)

(億円)

	2021実績						
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高の増減※1	-35	-74	-109	-17	-103	-120	-229
営業利益の増減※2	+12	-21	-9	+40	-32	+8	-1

※1 (1)代理人取引、(2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

※2 (2)売上高を基礎としたロイヤリティ収入、(3)変動対価、の影響合計

(1) 代理人取引

主たる適用セグメント	化学品、農業化学品、卸売
適用後	売上総利益額見合の売上高のみ表示(適用前は売上高、売上原価を総額で表示)
2021年度PLへの影響額	<ul style="list-style-type: none"> 売上高、売上原価がそれぞれ228億円減少、営業利益には影響せず 各セグメントの売上高には影響させず、「調整額」で控除

(2) 売上高を基礎としたロイヤリティ収入

主たる適用セグメント	農業化学品(動物薬ロイヤリティ収入)
適用前(2020年度まで)	MSD社※ 1-6月売上高見合を8月、7-12月売上高見合を翌年2月に計上
適用後(2021年度より)	MSD社※ 1-3月売上高見合を5月、4-6月売上高見合を8月、7-9月売上高見合を11月、10-12月売上高見合を翌年2月に計上

※ MSD社:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

(3) 変動対価(販売時点では変動する可能性のある売上値引など)

主たる適用セグメント	農業化学品
適用後	<ul style="list-style-type: none"> 売上期間に応じて見積もり計上(適用前は金額確定時に計上) 適用前に比べ、値引額は1Q増加(マイナス影響)、2Q減少、上期増加、下期減少、年間ほぼなし、の傾向
2021年度BSへの影響額	2021年度期首利益剰余金(BS項目)が2020年度の遡及修正で15億円減少(税効果反映後)
適用前(2020年度)	2020農年(2019年10月-2020年9月)の売上見合い値引きのみ計上
適用後(2020年度)	上記に加え、2020年10月-2021年3月の売上見合い値引き15億円追加計上

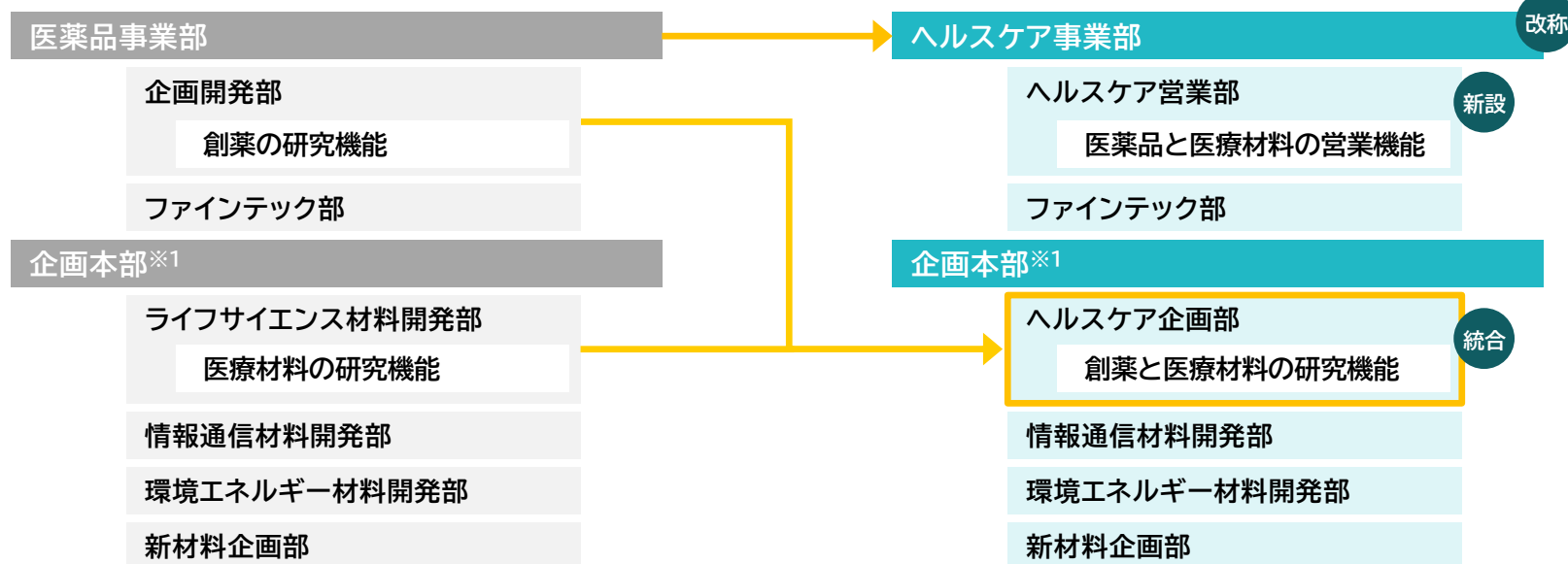
事業環境の変化を適切にとらえながら中長期的な成長を実現していくため、2022年4月1日付で以下の組織改定を実施(2022年8月発表 2022年度1Q決算説明資料から変更なし)

医薬品事業部および企画本部※1ライフサイエンス材料開発部の組織改定

目的 創薬・医療材料の機能統合(研究機能を企画本部※1。営業機能をヘルスケア事業部)

改定前

改定後



※1 企画本部は、セグメントでは「調整額」に含まれる。
 企画本部の2021年度・2022年度の実績値、2023年度・2024年度・2027年度の予想値はp45に記載

本ページは2022年8月発表 2022年度1Q決算説明資料から変更なし

(億円)

	2021年度 実績 (組織改定前ベース)					2021年度 実績 (組織改定後ベース)					組織改定 前後差				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
化学品	13	-1	13	13	38	13	-1	13	13	38	0	0	0	0	0
機能性材料	70	62	76	69	277	69	62	76	69	276	-1	0	0	0	-1
農業化学品	41	29	31	82	183	40	29	30	82	181	-1	0	-1	0	-2
ヘルスケア	-2	7	4	0	9	3	11	9	5	28	+5	+4	+5	+5	+19
ヘルスケア	-3	-2	-3	-3	-11	2	2	2	2	8	+5	+4	+5	+5	+19
ファインテック	1	8	8	3	20	1	8	8	3	20	0	0	0	0	0
卸売	7	6	8	8	29	7	6	8	8	29	0	0	0	0	0
その他	1	-1	2	5	7	1	-1	2	5	7	0	0	0	0	0
調整額	-11	-8	-8	-6	-33	-14	-12	-12	-11	-49	-3	-4	-4	-5	-16
合計	119	94	126	171	510	119	94	126	171	510	0	0	0	0	0

※1 2021年度実績(組織改定前)のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント

※2 ヘルスケアセグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

※3 卸売: 日星産業、その他: 日産物流・日産緑化・日産エンジニアリング・NC東京ベイ(旧社名: 日本燐酸。硫酸の製造。2023年度より連結子会社化)・日本肥糧ほか、調整額: 企画本部ほか

※4 企画本部の2021年度・2022年度の実績値、2023年度の予想値はp45に記載

※5 売上高は、組織改定の影響なし

新中期経営計画の実現に向け、事業領域の選択と集中を加速
(2022年5月発表 2021年度決算説明資料から変更なし)

注力する事業領域	主な取り組み	
ヘルスケア	核酸医薬 <ul style="list-style-type: none"> 当社独自の核酸創薬基盤技術を活用し、資源の8割を投入 製薬各社との共同創薬の着実な推進及びルクサナバイオテック株式会社との戦略的提携(核酸標的7テーマ確保) 	
	低分子医薬	創薬ベンチャーとの協業(10から3テーマに)、AI活用(既存創薬からの転換)
	医療材料	生体界面制御材料、化粧品材料等
ファインテック	既存ビジネスモデルの強化に加え、共同開発も指向(ペプチド等)	

資源投入

	(人、概数)			
	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究者数	75	15	20	20
ヘルスケア	65	5	5	5
ファインテック	10	10	15	15
参考 企画本部ヘルスケア研究者数	35	90	85	90

	(億円)			
	2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
研究開発費	21.3	7.4	10.3	11.2
ヘルスケア	18.0	3.1	5.2	5.3
ファインテック	3.3	4.3	5.1	5.9
参考 企画本部移管影響 (B)	-	14.5	12.6	12.7

計数計画

		(億円)			
		2021実績	2022予想 (2022年5月発表)	2024中計	2027中計
売上高		66.3	59.4	72.3	114.8
ヘルスケア	既存製品	24.2	21.3	11.3	9.0
	新製品	0.4	0.0	4.4	20.8
ファインテック	既存製品	41.7	38.1	50.6	57.9
	新製品	0.0	0.0	6.0	27.1
営業利益 (A)		9.5	20.9	21.5	42.9
ヘルスケア		-10.7	5.3	-7.0	-1.0
ファインテック		20.2	15.6	28.5	43.8
参考	企画本部移管前の実質営業利益 (A)-(B)	9.5	6.4	8.9	30.2

※ 2021年度実績のヘルスケアの数字は、旧医薬品セグメント(組織改定前)

セグメント		製品名	主用途
化学品	ファインケミカル	テビック	エポキシ樹脂： ソルダーレジストインク材料、LED封止材材料、粉体塗料硬化剤
		メラミンシアヌレート	難燃剤
		環境化学品	プール、浄化槽用殺菌消毒剤
		ファインオキシコール	化粧品原料、潤滑油原料、電子材料用接着剤原料
	基礎化学品	メラミン(22年6月生産停止)	接着剤
		アドブルー®	ディーゼル車排ガス浄化用高品位尿素水
		高純度硫酸	半導体用洗浄剤
		アンモニア、硫酸、硝酸、尿素	
機能性材料	ディスプレイ	サンエバー	液晶配向材用ポリイミド
	半導体	ARC®(KrF、ArF)	半導体用反射防止コーティング材
		OptiStack®(多層材料)	半導体用多層プロセス材料(Si-HM、SOC)
		EUV材料	EUVプロセス材料
	無機コロイド	スノーテックス	コロイダルシリカ： 研磨剤(シリコンウェハー、化合物半導体、半導体CMP等)、特殊鋼板
		オルガノゾル・モノマーゾル	有機溶媒・モノマー分散シリカゾル： フィルム表面処理、電子機器、樹脂添加剤
		オイル&ガス材料	シェールオイル・ガス採掘効率向上材
農業化学品	除草剤	タルガ	大豆、なたね、てんさい
		パーミット	とうもろこし、さとうきび、稲
		ラウンドアップ	非選択性茎葉処理除草剤： 非農耕地、果樹園
		アルテア	稲
	殺虫剤	グレーシア	野菜、茶
	殺菌剤	ライメイ	ばれいしょ、野菜、ブドウ
		クインテック(キノキシフェン)	果樹、野菜
		ダイセン(マンゼブ)	果樹、野菜
	動物医薬品	フルララネル	ペット用外部寄生虫薬BRAVECTO®、鶏用ワクモ駆除剤EXZOLT®原薬
	ヘルスケア		リバロ原薬
		ファインテック	課題解決型受託事業およびジェネリック製品開発

※ アドブルー®はドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標 ※ ARC®およびOptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標
 ※ BRAVECTO®およびEXZOLT®はMSD の登録商標

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。

本決算説明資料に掲載されている全てのコンテンツは、日産化学株式会社が所有しています。
